

進取

第 40 号

令和 8 年度

九州学生弓道連盟

巻頭言

九州学生弓道連盟会長 中村 幸一

弓道の稽古、修練にあたって皆さんは何を学ぶよりどことされているだろうか。基本は弓道教本第一巻ということになるだろうが、平常においては使いやすいとは言にくい。どこの道場にも掲示してある射法八節図解を見ながら、あるいは指導者から、先輩から解説を受けながら学んでいくことになる。

弓道教本の難しいところは、射法八節のそれぞれの型を示しているが、なぜそうするべきなのか、型からずれるとどういう問題が発生するか、という観点の説明はほとんどない。このあたりを指導者が説明し、実技指導して、また実践して導いていくことが重要になる。

指導を受ける学生諸君もどこが重要であるかを受け止め、理解する準備が必要である。次に八節にしたがって主要な点を示すので、参考にしていただけると有り難い。

- 一. 足踏み…的線上に正しく、左右 30° 度均等に開いて踏む。ずれると角度の大きい方に懸かる、退く。
- 二. 胴造り…三重十文字が基本。横線は捻れなく、縦線は仙骨を立てて背骨から頸椎を立てて心気を丹田におさめる。行射の根幹となる。
- 三. 弓構え…打起し以降の良否が決まるので大切にす。肩甲骨を前に、下部を八の字に開く、その余韻が羽引きとなる（教本第二巻）
- 四. 打起し…弓は右肘に心を置いて、体の中心に真っ直ぐ立て、矢は床と平行（水平）に運ぶ。左肘が目の高さかなり高い。
- 五. 大三…弓手肘で開いて大三を。妻手は付いていき、肘を高く寄せる。側頭部より拳一つに寄せる。矢は水平・的線に平行
- 六. 引分け…体中心で左右均等に開く。左右均等 $\parallel$ 矢は水平、的線と平行に運ぶ。開きつつ会へ。弓に割り込み肩線を矢に寄せる。
- 七. 会…縦横十文字。的付けは正しく。正しくなければ一線の離れは出ない。妻手拳は引っ張られて弦に任せる。
- 八. 離れ…体中心の離れ。伸び合いで体が開き、結果手が飛ぶ。妻手は発で握る $\downarrow$ 弓手も自然に握る。
- 九. 残心…射終わって、射場を出て、弓を置くまでを大切にす。感謝の気持ちを持つ。

書ききれものではないが、教本第一巻の100―101頁に「射法八節は基本体型（縦横十文字の規矩）を作りあげする方法として、その「法則」を説明している」ことを示している。「縦横十文字」が自然体であり、最も強く弓力を受けることができる骨格の構えということである。

目 次

巻頭言 九州学生弓道連盟会長 中村幸一… 1

目次 …………… 2・3

【文集編】

旅の途上	九州学生弓道連盟委員長	石橋百々香…	4
4×8	鹿児島大学	高尾 真叶…	5
歩の先に	熊本大学	平原 百花…	5
勝利の女神の漢	鹿児島国際大学	税所 玲音…	6
仲間の大切さ	別府溝部学園短期大学	本山 愛菜…	6
自主性と主将としての役割	大分大学	堺 大桜…	7
目標達成のために	鹿児島国際大学	谷口 俊輔…	8
徳	鹿児島大学	馬場 晴夢…	8
主将として	北九州市立大学	渡辺 咲来…	9
初志貫徹	九州共立大学	森 千隼…	9
求道	九州工業大学工学部	古井進之助…	10
目標達成に向けて	九州産業大学	平井 利旺…	10
道半ば	九州歯科大学	山田喜一郎…	11
大学弓道に出会い	九州女子大学	安永 結愛…	11
明鏡止水	九州大学	谷口 遥希…	12
日進月歩	近畿大学産業理工学部	牛道 快…	12
弓道とは	熊本学園大学	楠本 快晴…	13
主将として	熊本県立大学	池田 大和…	13
目標達成に向けて	熊本大学	原田 楓麻…	14

弓道を通して	久留米大学	木村 大也…	14
部員とともに	佐賀大学	藤田仁之介…	15
急がず、休まず	西南学院大学	岩坂 親憲…	16
私にとっての弓道	崇城大学	佐藤 蓮…	16
大学弓道の心構え	筑紫女学園大学	穂本 侑空…	17
抱負	長崎大学	白石 瑠偉…	17
主将としてできること	長崎県立大学	岩中 優太…	18
かけがいのない経験にするために	中村学園大学	村田 実穂…	18
自分にとっての弓道	西日本工業大学	原野那央斗…	19
主将として	日本経済大学	木本 和将…	19
頂へ行きます	日本文理大学	新名 優心…	20
王座に行くために	福岡大学	林田 大輝…	20
部活づくりと学級づくり	福岡教育大学	今川くるみ…	21
頑張る	福岡工業大学	大坪 永遠…	21
今後の目標	別府溝部学園短期大学	堀 小粋…	22
妥協しない自分へ	宮崎大学	合屋 祐孝…	22
弓道を始めて	琉球大学	椛島創一郎…	23
大学弓道	九州看護福祉大学	澤田 桃香…	23
準備期間	九州工業大学情報工学部	坂本 淳朗…	24
弓道で学んだ悔しさと成長	福岡歯科大学	阿部 天音…	24
大学で弓道をしてみて	福岡女子大学	森 叶圭…	25
大会に向けて	南九州大学	松井翔太郎…	26

【資料編】

第六八回	西日本学生弓道選手権大会	27
第三六回	全国大学弓道選抜大会	33
第七四回	九州地区大学体育大会	36
第七二回	全日本学生弓道選手権大会	38
第六二回	九州学生弓道選手権大会	41
第七二回	全日本学生弓道王座決定戦男子の部	45
第七〇回	東西学生弓道選抜対抗試合男子の部	45
第四八回	全日本学生弓道王座決定戦女子の部	48
第四八回	東西学生弓道選抜対抗試合女子の部	48
第一回	九州地区百射会・記録会	51
第二回	九州地区百射会・記録会	52
九州学生弓道連盟役員		53
九州学生弓道連盟校一覧		54
令和六年度 決算報告		57
九州学生弓道連盟規約		58
令和七年度 年間行事予定表		67
編集後記		68

旅の途上

九州学生弓道連盟委員長 石橋百々香

九州学生弓道連盟の委員長を務めさせていただいております福岡大学の石橋百々香と申します。まず日頃から本連盟の活動にご支援、ご協力いただいている皆様にご場をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。

昨年は第一回九州地区百射会・記録会を開催する運びとなりました。また本年の三月に第二回大会も開催させていただきました。多くの方にご参加いただき喜ばしい限りです。ありがとうございました。今後も開催を予定しております。百射会・記録会を開催するにあたり

九州地区で弓を引く学生のモチベーション向上、目標とする場として次世代の憧れの舞台となる大会にしていく所存です。上記の事を実現していくには皆様のご協力が不可欠です。ぜひ今後のご参加のほどよろしく願います。またまだまだ我々では行き届いていない点もあるかと思えます。お気づきの点がございましたらご意見等お聞かせいただきたいと思います。よろしく願います。

さて、大学に入って弓道続ける人は高校のころに比べると減ってしまう。実際私の高校の同級生(二十二名)で大学の弓道部に入部したのは私を含めて四人でしたが一人は二年生の時に退部してしまいました。このように皆さんの周りでも同じような事象が起きているのではないのでしょうか。高校では同じ部活動でなくても周りの友人が部活動に励んでいることが多くその風潮で三年間部活動が続けられるのかもしれません。しかし大学では同じ学部の友人が部活動に加入しているとは限りません。活動頻度、周りの友人はアルバイトや遊びに専念できるが部活動をしているとどうしてもそういったものは後回しになり、大会やそれに向けた練習が優先されるなど要因は様々でしょう。

私自身も高校三年間は斜面打起しで練習してきました。しかし、福岡大学では正面打起しで練習するよう監督に言われ、最初は打起しを变えるだけで軽く考えていました。しかし的中はめっきり落ち、周りは受験期間のブランクを感じさせない程上達する中上達できない自分に憤りを感じ部活を辞めようと考えることが増えていきました。幸いなことに私の周りには根気強く射を見してくれる先輩、頑張ろうと励ましてくれる同期がいてくれました。そのおかげで何とか今日まで弓道続けることができました。

皆さんの周りにも何かしらの理由で悩んでいる人がいるのではないかと思います。周りをよく見てあげてください。そして悩んでいる人がいればできる範囲で構いません手を差し伸べてあげてください。一人でも多くの人に大学弓道を楽しんでほしい。しかし我々連盟の役員にできることは限られています。そこで連盟に所属する各大学の皆さんにご協力いただきたいと思います。

男子団体優勝

4×8

鹿児島大学 高尾 真叶

「6人で強い方が強い」

私が好きな漫画の名言である。

練習すればするほど一年生の時に憧れた先輩を超えることはできないと実感し、大会に出場すればするほど超えられない選手がたくさんいた。しかし、チームとしては、西日・全九を二連覇することができた。

大会の時、どの選手も自分が一番になることを目指していると思う。しかし、私は一番をとれるような技術も精神力もない。だからこそチームで一番をとるためにチームを支えられる選手・主将になりたいと思い、練習をしてきた。

弓道は個人競技ではないか、という問いを一度は考えたことがあるだろう。私は胸を張って団体競技であると答えることができる。たとえ自分が弱かったとしても8人で、32射で、強い方が強いからだから。

女子団体優勝

歩の先に

熊本大学 平原 百花

九州学生弓道選手権大会において、36年ぶりとなる女子団体優勝を果たすことができ、大きな喜びとともに、伝統ある熊大弓道部の一員として歴史に名を刻めたことに誇りを感じています。優勝までの道のりは決して平坦ではなく、日々の地道な練習や過去の悔しい敗戦を乗り越えてきたからこそ得られた結果です。部員全員が全九優勝という共通の目標に向かって努力し、技術の向上はもちろん、互いに声を掛け合い支え合いながら強い絆を築いてきました。本番では全員が持ち前の精神力を発揮し、練習の成果を十分に出し切ることができたことが優勝という結果に繋がったと思います。

36年という長い歳月を経ての優勝は、私たちだけでなく、これまで部を支えてきた先輩方や指導者の想いも込められたものであり、深い感慨があります。今後はこの経験を糧に、後輩たちがより一層成長し、活躍していくことを願います。

男子個人優勝

勝利の女神の漢

鹿児島国際大学 税所 玲音

拝啓、俺が強すぎて弓道が楽しい時期になりましたね！！九州のみんなはいかがお過ごしでしょうか

大会とは、日頃の練習の成果を発揮する場所ではなく「勝つ」場所です。したがって勝利の女神から毎晩 calling される俺が勝ったのです。

今後、大会で話しかけてくれた方には、勝利の女神の連絡先を教えるので、みんな声をかけてね！！

わざわざ格下を見ないでしょ俺が鹿児島のリヴァイ兵長

敬具

女子個人優勝

仲間の大切さ

別府溝部学園短期大学 本山 愛菜

私は、短大に入学してから思うような結果を出せず悔しい経験を沢山してきました。二年しかない大学生生活で、一年生の頃から実習や就職活動に取り組みながら練習をしていました。短大ということもありメンバーを揃えることがとても大変で、団体戦に正式な人数でチームを組み参加することは一度も出来ませんでした。

しかし、辛い時・苦しい時に支えてくれた仲間と練習してきた成果が今大会で発揮することが出来ました。憧れの先輩と同じ舞台で、中学から初めた学生弓道の締めくくりに個人優勝をするこ

とができ嬉しかったです。

今大会で個人優勝できたのは仲間や先生方、他大学の方そして、卒業生の先輩の応援がとても励みになりました。たくさんの方の応援ありがとうございました。

自主性と主将としての役割

大分大学 堺 大桜

大学で弓道を始めて一年半以上が経過した現在、強く重要だと感じています。それは「自主性」です。

高校時代は、顧問の先生が射技のアドバイスや試合での声掛け、弓道部員としての心構えなど、さまざまな面で丁寧な指導してくださいました。しかし、大学では状況が大きく異なります。常に指導を受けられる先生がいるわけではなく、部員同士で射技を高め合い、励まし合い、規律を保つことが求められます。まさに、自主性が求められる場だと感じています。

このように自主性の重要性を実感する中で主将として自分が果たすべき役割について考えるようになりました。部内で最多の中心になることが重要なのか、率先して行動を続けることが求められるのか、それとも別の役割を担うべきなのか。現時点では、その答えを明確に見出すことはできていません。ただ、その答えを模索する過程そのものが、自分自身の方向性を見直すことや部全体の成長につながるはずだと考えています。

部員数や同乗の整備状況、そして部や個人の射技など、さまざまな課題が存在しています。それらを一つずつ整理しながら、自分が主将としてどのように行動すべきかを模索し、この模索の中

で、一部の成長と自分自身の成長を同時に実現していきたいと思っています。そして、その実現のためにこそ「自主性」をさらに深く追求し、行動に移していきたいと考えます。

目標達成のために

鹿児島国際大学 谷口 俊輔

私の学生弓道の最終目標は、王座優勝である。学生弓道をしている者なら誰しもが憧れる舞台だ。

私が入学する一年前に鹿児島国際大学は全九で初優勝し王座出場を成し遂げた。しかしそれ以降は王座に出場できていない。メンバーは歴代最強と言っても過言ではないくらい揃っている。しかし大会になると空回りし、実力を発揮できずに自滅してしまう。

私は、初の王座出場を成し遂げた主将から「主将は勝たせる義務がある」と言われた。代替わりをし、主将になった今、私はこの一年を弓道部に捧げる。勝たせるためには、まず私自身が大きく変わる必要があるからだ。容易なことでは無いことは分かっているがこれ以上、敗北を味わいたくない。試行錯誤しながらになるが、色んなことに挑戦していこうと思う。何がなんでもこの目標は達成してみせる。

徳

鹿児島大学 馬場 晴夢

聡明でかなり哲学みを感じる題名であるが、私は哲学系の話は苦手である。ではなぜこのような題名にしたのか、それは漢字一文字の題名で綴られた文章はかっこいい気がするからだ。冗談はさておき。鹿大は題名にもある「徳」というものを大事にしている。徳といっても安土のごみを拾う、弓道場をきれいに使うなどごく当たり前のことなのであるが、こうした当たり前のことを当たり前に行うのは極めて難しいことなのである。そのため鹿大ではそうした当たり前のことを「徳」と表現し、徳を選手全員が拾い集めることで当たり前のことを当たり前にできるチームへと育成されているのだ。野球の大谷翔平もそうであるように当たり前のことができる選手が集まってこそ常勝チームへとなれると信じているため、鹿大弓道部は今後もありったけの夢と希望と徳を拾い集めていきたい。

主将として

北九州市立大学 渡辺 咲来

私は中学から弓道を始めました。大学弓道は中学や高校の弓道と違うことが多く、戸惑うことが多かったですが、仲間や先輩方のおかげで少しずつ慣れてきて楽しく部活動が続けることができました。まだまだ不安な部分もありますが、主将という役割をいただけたことに感謝し、弓道と誠実に向き合っていきたいと思っています。

大会の団体戦ではあと一本足りなくて予選突破できず悔しい思いをすることが多いため、一人一人が自分の一射を大事に最後まであきらめずに引ききることが北九大弓道部の今後の課題です。本番でそれぞれが実力を発揮し、悔いのない試合をできるように日々努力していきたいです。そして、男子・女子団体に共に優秀な成績を残せるように主将として部員をまとめ、チームを盛り上げていけるように全力で取り組んでいこうと思います。

初志貫徹

九州共立大学 森 千隼

高校から弓道を始めて今年で五年の月日が経った。この五年間のうち、大学で弓道を続けてきた二年間は、果てしなく過酷な道のりだったと実感できる。

大学弓道の世界に入ってまず驚いたのは、そのレベルの高さである。私は、高校弓道とのレベルの差に対応できずに焦ってしまった結果、早気になってしまった。何度も弓道から逃げ出したいとなったが、腐らず努力を続けているといつの間にか忘れてしまっていたことをもう一度、思い出すことができた。それは、周囲の環境に吞まれず冷静さを保つこと、自分自身と向き合うことである。これらのことを思い出してからは、外の人と比べることが無くなり、焦っている中のことだけを考えることも無くなった。

それでもなお、焦りによって悪化した射型や早気の克服など、課題は残されているが初心に戻って、常に冷静になり自分自身と向き合うことを忘れずに大学弓道に打ち込んでいきたいと思う。

求道

九州工業大学工学部 古井 進之助

大学生になって自由な時間が増えた今、やること成すこと全てに明確な意味を要求されている気がする。中学高校で何となく弓道部にいた私にとって、その欠如は弓道を継続していく上での大きな課題であった。ただ、大学生活やアルバイトに時間が割かれてしまうので、弓道をする意味などを吟味する余裕はなく、日常からふと感じる弓道とのギャップから逆説的に導き出すので精一杯であった。接客業に従事したり、主将として仕事をしたりして思ったのは、そうした仕事は他人に注意を向ける行為であるのに対して、弓道は自己に傾注する行為ではないかということである。自己への意識を高め集中を洗練する機会を得られること、これが現時点での私の思う弓道をする意義である。これから社会に出ていく我々にとって、そうした時間は大変貴重なのではないだろうか。

目標達成に向けて

九州産業大学 平井 利旺

九州学生弓道選手権大会の目標達成に向けて、私たちは日々の練習に全力を注いでいます。この大会は、これまでの努力を試す重要な機会であり、個々の成長を促す舞台でもあります。目標達成のために各自が自分の課題を意識し、反復練習を重ねることで、安定した射を目指しています。また、チーム全体の士気を高めるために、互いに支え合い、励まし合うことを大切にしています。仲間と共に目標を共有し、一緒に成長していくことでより強いチームを築いていきます。全員が力を合わせ、最高のパフォーマンスを発揮できるよう、最後まで全力で挑戦し続けます。

道半ば

九州歯科大学 山田 喜一郎

弓道を始めて今年で三年目となる。弓道の静かで凛とした雰囲気への憧れで始めたが、続けるにつれてその奥深さや面白さに惹かれるばかりである。

弓を引く際に心がけているのは「自分自身を振り返ること」と「的中に囚われないこと」である。いずれも改めて挙げる程のことではないが、当然であるからこそ最も大切にすべきことだと考えている。大学から弓道を始めたため、高校弓道経験者の的中を見て焦ることが何度もあったが、常に改善点を模索し、中で射に走らないように心掛けた。自分の射には至らぬ点がまだ多くあるが、少しずつ着実に成長していると思う。

今後、今後も常に自分の射を振り返り、少しでも正射に近づいていくように弓を引き続けていきたいと思う。

大学弓道に出会い

九州女子大学 安永 結愛

大学弓道を始め主将という役割を任せられ今年で進取を書くのも二回目となりました。ありがたいことに昨年も書かせていただき、今年も私が書かせていただきます。

高校一年生から弓道を始め約五年が経とうとしています。今年の五月に初めて早気になりました。離したい気持ちが強くなり今まで引いてきた弓の感覚は思い出せません。大会も出場しますが緊張で早気が悪化する一方でした。緊張にも打ち勝つメンタルが必要だと思い大会や練習試合は必ず出場しました。そこから約六ヶ月が経ち、練習では治ってきていますが大会では本領を発揮できていません。まだまだ早気と付き合っていく必要があります。

主将という役割を任せられ二年目となり、一年生も入部し人数は中々増えませんが私が大学弓道を始めていろんな人との出会いで学んできたことをこれからもっと伝えて日々部員一同成長していきます。

明鏡止水

九州大学 谷口 遥希

明鏡止水、「曇りのない鏡」を意味する「明鏡」と「波紋がない静かな水」を意味する「止水」の二つで構成されるこの四字熟語は「邪念」がなく、澄み切った心の状態のことを指している。この言葉は私の弓道における座右の銘であり、弓道を始めて五年が経った今でも心に持ち続けている。

弓道における「邪念」とは、的に中てたいという気持ちが先行し過ぎることであると感じる。勿論試合で勝つためには、的中が必要である。しかし、試合で中てきるためにはどのような緊張状態でも雑念に支配されず、心を動かされ強い精神力が重要であるように思う。これはまさに、雑念や邪心を打ち消して、澄んだ心で引く、「明鏡止水」に繋がるのではないだろうか。

時が過ぎるのは早いもので現役生として弓を引けるのも残り一年となった。技術面でも、精神面でも、主将としてもまだまだ未熟ものであるが、支えてくれる部員に報いるためにも、九大弓道部をもっと盛り上げていくためにも、「明鏡止水」を胸に日々精進していきたい。

日進月歩

近畿大学産業理工学部 牛道 快

私は高校時代熱心に練習していましたが、何一つとして試合で結果を残すことができませんでした。この悔しさを糧にし、大学では必ず試合で結果を残すと心に誓い、常に進取の精神で新しい目標や挑戦に取り組んでいます。

コロナにより停止していた部活が再開し、部の体制も固まっていないうちで部内ミーティングを重ね方向性を決定しながら進んだ一年でした。その結果、少しずつ団体と個人での入賞を果たすことが出来ました。

日々の練習に加え一般道場での練習や練習試合、一般試合への参加を通じて他大生や社会人の方など交流を広め普段と異なるアドバイスを受ける機会を得ることで自身やチームのレベルアップを図っています。

今後大規模な試合でも結果を残すことを目標に精進していきます。

弓道とは

熊本学園大学 楠本 快晴

私にとって弓道とは、唯一無二の存在である。弓道を通して、己の精神が鍛えられる。同時に、これまで練習で一緒に切磋琢磨してきたチームメイトとの一体感を得られる。しかし、これらが達成されるには、厳しい自己体制と情緒の安定が要求され、チームの共通認識を持つことが重要で容易なことではない。

私は、練習や大会に出場していくうちに、大学弓道は高校の時よりも勝利への執念が強いと感じた。しかし、我が熊本学園大学弓道部は、毎度の大会であと一本に泣かされている。それは、自分自身が勝ちへのこだわりがなかったからで、心の弱さが表れていた。

現に、私はこれまでの大会でメンバー選考の土俵にすら立っていない。これでは、弓道が私にとって唯一無二の存在になるとは到底言えない。人生をかけて弓道に向き合うために、勇往邁進して稽古に取り組む所存である。

主将として

熊本県立大学 池田 大和

私は、高校時代にコロナ渦で満足のいくような練習ができず大会への出場回数も限られていたため、今まで以上に弓道を極めようとこれまでの練習や大会に挑んできた。

しかし、代替わりで主将を務めることになりただ弓を引くことだけが自分の目指すところではないと気が付いた。それはチームで弓を引くということである。毎日の練習内容や部員とのコミュニケーションなど日々試行錯誤の中で弓道とは何か、チームとは何かを考える機会が以前よりも増えた。これからは弓引きとしてだけでなく弓道部の代表として大会で結果を残すために精進していく。残りの弓道生活、悔いの残らぬように全力で突き進んでいきたい。

目標達成に向けて

熊本大学 原田 楓麻

熊本大学体育会弓道部には、男子24名、女子17名の計46名が所属しており、全九優勝を目標に日々練習に励んでいます。

私達は、週4日を部員全員で立を組んで行う合練の日、残り3日を各人が自分のペースで練習する自主練の日としています。合練の日には、積極的に介添を行なっています。他の部員の射に対する理解を深めるとともに、アドバイスをすることで、の気付きを自らの射にも反映させることで、自分が弓を引いていない時間も射技向上に資するものにするためです。

部設立以来、先輩方は素晴らしい成績を収めてくれました。私達の代も先輩方が残した成績にも負けない成果を残せるチームを作れるように、精一杯努力していきます。そして、必ずや目標達成を成し遂げてみせます。

弓道を通して

久留米大学 木村 大也

私は高校で弓道と出会いました。弓道を始めた理由は部活動見学に行った際に、弓を引いている姿がかっこいいと思ったからです。実際に弓道を始めてみると半年間程は、基礎練習だけの前で引くことができず地味な部活だなと感じていました。それでも、一緒に練習を頑張る仲間がいたおかげで、挫折せず楽しく基礎練習を乗り越えることが出来ました。その後も優しい先輩や同級生に囲まれ、楽しく高校の弓道を終えることが出来ました。

高校で弓道が楽しいことを知ったので大学でも迷わず弓道部に入ることを決めました。しかし、大学の部活は想像していたものとは違っていました。弓道部に入学して頑張ろうと思っていた矢先、道場の立て直し工事が始まりました。そのため学校に道場がなく、離れた所に練習に行くことになりました。その場所も遠く、練習に参加できない人が大半で人の集まりが悪くやめる人もいました。そんな中でも続け大会に出場すると、高校と一緒に弓道をやっていた仲間に再会しました。その後も大会に出るたびに再会し、道場を借りて一緒に練習することが増えました。そういった楽しみが出来て大学1年生の弓道生活は楽しくなりました。今年大学2年生になり、大学に道場が完成し後輩も出来ました。し

部員とともに

佐賀大学 藤田 仁之介

かし、道場がなかった時期の習慣のせいか人の集まりはさほど変わりませんでした。この事実には自分は正直とても残念に思いました。

3年生が引退し、主将になった今自分が1番に目標にしていることは、部活動を賑やかにすることです。弓道部として腕を磨き大会で結果を残したいと思いますが、その前に部員が部活の時間が楽しく積極的に参加したくなるようにすることが大切だと思います。部活動の時間でも厳しいルールは設けず、楽しい雰囲気を作るように心がけています。自分が引退する1年後までに、部員のみんなが仲良く部活に参加し、的中率もそれに伴い上がっていきばいいなと考えています。自分は人の上に立つ役割に就くのは初めてなので、主将になって不安なことばかりですが、部員と同じ目線でこの1年を頑張っていきたいです。

「弓道を辞めたい」と今まで何度も思うことがあった。その度にすぐ弓道場に足が向かってしまふからやはり弓道が好きなのだと思う。大学生活を送りながら週4回部活をするのは大変だと思う。それでも弓道部に入部して弓を引いている他の部員もやはり弓道が好きなのだろう。そんな部員との部活は楽しくて私にとって大切な時間である。

代替わりが行われて私が主将になった。正直、私は自分のことに精一杯で主将の器ではないと思う。そんな私についてきてくれる部員に伝えられるように私なりに悩み、考えて行動で示したいと思う。主将になって1ヶ月経ったが後悔することばかりだった。支えてくれる部員とともに成長して最後は主将であったことを誇りに思いたい。部員全員で掲げた目標を達成出来たときに全力で喜べるように残り1年を過ごしていく。

急がず、休まず

西南学院大学 岩坂 親憲

私は、我々の道場の下座に掲げられている「不急不休」という言葉を大切にしております。私の弓道人生は短いのですが、その大半を様々な射癖に苦しめられてきました。悩みながら稽古をしている最中、ふと目に入った「不急不休」の言葉が、心に響いたのです。

矢数を掛けて的中を出し続けることに重きを置き、目先に囚われていた私は、急がなくて良いのだと悟られました。すると、会など、部分的ではなく、射全体を考慮できるようになり、射癖も以前より改善されました。考え方次第で変わるものですね。

しかし、急がずとも休んではいけません。たとえ道場に行けずとも、勝つ為には射技を向上させねばならないのです。代表的なものは、徒手、ゴム弓ですが、方法は無限大にあると思います。毎日の前に立つことが理想ですが、そうもいかない大学生活です。「不急不休」の言葉から学んだことを、部員の皆さんにもお伝えできればと考えております。

マタイ副音書にあるように、私も地の塩となって、西南大弓道部の的中向上・射技向上に貢献できましたら幸いに存じます。

私にとっての弓道

崇城大学 佐藤 蓮

私は高校から弓道を始めました。高校は周りの人が知らない人ばかりでしたが、弓道部の人たちを通じてたくさんのお会いがありました。「高校の思い出は」と聞かれたら私は「部活」と答えるでしょう。弓道部のおかげで楽しい三年間を過ごしました。

大学で弓道を続けたきっかけは、高校の最後の大会が県総体でしたがとても悔しい思いをしたからです。自分の思うような射型が全然できなかったり、的中が下がる一方で辛い思いをして弓道が楽しくないと思うことがよくあります。しかし、弓道を約四年半続けているため、私はやっぱり弓道が好きだと感じています。

私の弓道人生は大学で終わると思うので、残りの数年間を悔いが残らないように楽しみたいと思います。また、現在主将として後輩たちにいい思いをさせて引き継ぎたいです。

大学弓道の心構え

筑紫女学園大学 穂本 侑空

私は大学入学後に弓道を始めました。弓道初心者として目指すべきことの目標は、基本的な動作である「射法八節」を正確に身につけることです。

射法八節の足踏み、胴作り、弓構え、打起し、引き分け、会、離れ、残心の八つのステップを一つ一つ丁寧に練習することで、安定して矢を射ることができるようになりました。また、技術面だけでなく精神面の成長も大切だと思いました。物事に落ち着いて取り組む心と集中力を養うことで、無心の状態で矢を射ることを目指します。

日々の練習を通じて、技術と精神の両面で成長していきたいと思っています。

抱負

長崎大学 白石 瑠偉

私は、長崎大学全学体育会弓道部第六十五期主将として、次の二つのことに注意していきたい。

一つ目は、審査を有効に活用するということである。射技を磨くこと、昇段することで、自信をつけることができると思うからだ。自信をつけることは大会での成果に繋がると考える。

二つ目は、時間の使い方に気を付けるということである。長崎大学弓道部は、三回生時の全九を最後に幹部交代が行われるため、活動できる期間が短い。大学での研究や学習を重ねながら、いかに空き時間を作り、練習に充てることができるかが肝心であると考えた。

以上の二点を特に強く意識し、後輩の育成に力を注ぐと同時に自分自身も高めていきたい。まずは有段者を増やし、より多くの人が四段に合格できるように精進していきたい。

主将としてできること

長崎県立大学 岩中 優太

私は高校生の時から弓道を始めました。大学弓道では高校弓道とは異なる点が多く、様々な環境の変化に戸惑いながらも日々練習に励んでいました。高校では役職に就いた経験はありませんでしたが、大学では主将に任命され、リーダーとしての役割を担うこととなりました。主将としてのプレッシャーから、的中が安定せず自分の射型に自信が持てなくなってしまい、上手くやっていたのかという不安に駆られることもありました。しかし、主将としての責任を果たすために自分に何ができるのかを考えた結果、率先して弓道に取り組み、努力を惜しまないことで、「この人についていきたい」と思われるようなリーダーになりたいと考えるようになりました。そのためには、自分が結果を出し、周囲にも良い影響を与えることで、部全体が目標に向かって進むための環境を作っていきたいと思っています。

大学で弓道をするのですが、時間が限られています。主将として部に貢献し、悔いが残らないように全力で弓道を楽しみながら、最後まで取り組んでいきたいです。

かけがえのない経験にするために

中村学園大学 村田 実穂

私は高校時代、九州大会に出場することを目標にして弓道に励んでおりました。しかし仲間との行き違いにより個人、団体と九州大会に出場することができませんでした。高校では諦めてしまったこの目標を大学で挑戦するため、日々練習を行なっています。まずは3部リーグから2部リーグへ上がるため、団体としての中の数が増えるように、工夫をして練習内容を考えています。同年代の仲間と協力して同じ目標を目指すことは今しかできない経験だと思い、またその経験を大学卒業後も生かすことのできるかけがえのない経験にするため、試行錯誤しています。まだまだ未熟で周りとの協力がなければ達成することはできないけれど、残り短い学生弓道生活を悔いなく全うできるように全力で目標目指して精進します。

自分にとっての弓道

西日本工業大学 原野 那央斗

私は高校から始めた弓道を、現在も続けており、六年間の経験を通して多くのことを学びました。弓道は単に的を射るだけではなく、心身の鍛錬や精神的な成長を促す武道です。初めて弓を手にした時、思うように弓を引けず、的に当てることすら難しかったことを今でも覚えています。しかし、練習を重ねる中で、弓道は技術だけでなく、心の持ち方が大切であることに気づきました。例えば、集中力を高めるためには無心で弓を引くことが求められ、感情のコントロールが結果に大きく影響することです。

また、弓道は個人の成長だけでなく、チームとしての連帯感も重視されます。仲間との練習を通じて、お互いに励まし合い、時には競い合いながら、お互いの技術向上を目指します。試合では、個々の努力が成果として現れる一方で、チーム全体の力が試される瞬間でもあり、その経験は私を成長させました。

これからも弓道を続ける中で、技術や精神力をさらに高め、学びを深めていきたいと思っています。弓道を通じて得た経験は、今後の人生にも大いに役立つと確信しています。

主将として

日本経済大学 木本 和将

弓道部主将としての役割は、部員一人ひとりを尊重し、共に目標に向かって歩むことです。信頼される存在であるために、誠実かつ真摯な態度で接し、練習や試合で模範となることを心掛けています。弓道は技術だけでなく心の鍛錬も大切であり、部員同士が励まし合い、精神的に支え合える環境を作ることが主将の役割だと考えています。

試合結果にこだわりつつ日々の稽古で成長を目指していますが、団体での結果が振るわない現状です。各選手の実力は他大学に負けてはいませんが、矢数が不足していることが敗因に挙げられます。練習に参加できない理由は理解していますが、チームとして強くなるためには、部全体で一丸となつて練習に来やすい雰囲気を作ることが重要です。

私の今後の課題は、先輩方やこれから入ってくる後輩が部活に参加しやすく楽しいと思える部活に変えることです。主将として部の団結力を高め、共に成長し、いつか王座に出て伊勢に有田監督を連れていきます。

頂へ行きます

日本文理大学 新名 優心

私は高校時の栄光を超えるため大学二年間を弓引きとして弓道に捧げてきました。しかし、人生というものはそう思ったようにいくものではなく、いまだ達成できずにいます。何が悪かったのか、又何が良かったのか、日々反省が絶えません。弓引きとしてまだ長くある大学という括りで見るとそう長くはないのが現実です。私にとって出来ていたことが今になって出来ないというのはあまり納得のいくものではありません。あと一年、私には時間が残されています。この短い猶予の中で自分の射を見つけ誰がためになる背中を後輩に見せていきたいと思います。何度も申し上げます。あと一年あります。未来の自分の糧になることを想像し、現実にできるよう足並みを揃えここまで歩んできた仲間とともに頂へ行きます。

王座に行くために

福岡大学 林田 大輝

新一年生になる n 村くんへ

福岡大学弓道部では、OBの先輩のご指導のもと、王座優勝のために日々練習を頑張っているのに、n 村くんは今、受験が終わった解放感から遊んでいると思います。彼女とずっと遊んでいたりにしている君は絶対に練習についていきませんよ！

王座を優勝するためには、日々の練習から一本一本を大切にしてい、自分の射の理解度を深め、心技体をしっかり伸ばしていかなければならないと思います。

それなのに、n 村くんは高校の時から心の部分がなっていないと思います！団体の時からずっと煩惱にまみれていましたよね！福大の先輩たちは君があの時しちゃったことを全部知っていますよ！ちゃんとメンタルを鍛えて頑張っていきましょうね！

来年は n 村くんの秘密語ってね！

部活づくりと学級づくり

福岡教育大学 今川 くるみ

部活とは豚汁である。具の大きさや形、すなわち考え方や生まれ育った環境が異なる部員が集まって調和していくのが部活である。主将は具の役割と同時にお椀の役割を果たす。一選手として技量が求められる上に、部を統括する立場であるからだ。しかし、部員の弓道に対する気持ちには大小の違いがあり、優先度も各種各様である。衝突が起こるのは当然だ。そのため、主将をはじめとする幹部には部員の気持ちのベクトルの向きを揃えていくことが求められる。

福岡教育大学の目標は各大会でリーグに進出することである。現状としては実力不足であるが、個々の弓道に対する熱は本物である。目標を達成すべく、部に必要な言葉と練習メニューで団結力を形作っていききたい。

最後に、冒頭に述べた豚汁理論は教育にも通ずる。教員を目指す私たちにとって、部活で得る経験は財産であり、学びの場である。向上心を持った主将か教師になるべく、熱い気持ちを持って日々稽古に励んでいきたい。

頑張る

福岡工業大学 大坪 永遠

私は、主将に求められている力は何なのかいつも考える。他大学の主将たちと比べてチームを引っ張る的中もリーダーシップもない。考えるだけで自分の実力不足を痛感し、不安になる。しかし、任せられたからには、やるしかない。できないことばかり考えても仕方がないので考えるのをやめた。私にできることは少ないので何事も同期や後輩を頼ることにした。私には、先輩方や他大学のかっこいい主将のような力はない。私が大学弓道を引退するまであと一年。自分にできることを全力でやる。そして、最後には笑顔で引退したい。

今年一年間よろしく願います。

今後の目標

別府溝部学園短期大学 堀 小粹

私は高校から弓道を始め、一本一本集中し落ち着いて弓を引くことを頑張ってきました。私はあまり集中力がなく、すぐに他の事に気を取られてしまい、している物事が疎かになることが多々ありました。加えて落ち着きもなかった為、弓道を始めた頃はとてもひどい状態でした。しかし、同じ部員の人達が次々に上達していくのを見て、私も頑張らなくてはならないと思い、日々の練習から集中力と落ち着く事を意識していきました。二年になってからは集中力も上がり、落ち着く事もでき、矢が的に中る事が多くなりました。毎回緊張していた試合も、今ではあまり緊張する事なくリラックスして引けるようになりました。

大学でも、引き続き集中する事と落ち着く事を意識して頑張りたいと思います。

妥協しない自分へ

宮崎大学 合屋 祐孝

初めて大学弓道の大会に出場してから、既に一年が過ぎた。何度も大会には出ているが、未だに結果を出せてはいない。大会では、選手のそれまでの努力は中りか外れか、看的板のマルバツに変わってしまう。各大会のたびに大会に向けて練習に励むが、大会の緊張感の中では普段通りの射ができず、矢が的外れるたびに焦ってしまい、それまでの努力を無駄にしてしまう。私はこの一連の流れを何度か経験しており、そのたびに次こそはと練習するのだが、同じように繰り返してしまう。そのような自分が大嫌いであり、大会でチームの役に立つことができないのは本当に悔しい。本来は後輩を支える立場の自分が支えられている現状がとても情けなかった。このように失敗してしまう原因として前々から考えていることがある。それは「妥協」である。練習や試合で、その気はなくても妥協してしまっていることがあるのだ。今一度、妥協した射、妥協した練習となっていないかを自らに問いかけていきたい。そうして、自らの嫌いな部分を押しつけていきながら、選手として、また主将としても成長していけるように残りの学生弓道生活を歩んでいきたい。

弓道を始めて

琉球大学 椋島 創一郎

私が大学から弓道を始めたのは昔から弓道に憧れを持ちながら、中学、高校に弓道部がなく大学に入ってようやく弓道部にありつけたためです。弓道は一見弓を引くだけの単純な競技に見えますが実際にやってみると、立ち方や手の内などとても多くの技術が矢一本に収束されています。その他にも行射の作法や歩き方など、弓道について覚えることはたくさんあります。

部活では同級生も多く、日々より綺麗に引けるよう、また一本でも多く中てられるように先生や先輩の指導のもと練習する時間がとても楽しく感じています。これからも同級生や先輩たちと切磋琢磨して頑張っていこうと思います。全九では日々の成果か、ラッキーか一中することができ、これからも頑張ろうと思った次第です。

感謝します。弓道に出会えたすべてに。

大学弓道

九州看護福祉大学 澤田 桃香

私達の大学では、現在十一名の部員が所属しております。指導者がおらず、学生同士で教えあい成長してきました。看護大学ということもあり、学業が多忙で、練習時間は他大学よりも短いとは思いますが、息抜きにもなっつてすごく良い時間になっています。また、大会に出場することは少ないのですが、一日一日を大切に練習していきたいと思っています。

準備期間

九州工業大学情報工学部 坂本 淳朗

私の所属する弓道部には三年生が一人しかおらず、私は二年生で部長を任されました。引継ぎも不十分で、弓道場もない中でのスタートは試行錯誤の連続でした。それでも部員数を増やし、練習頻度を上げるなど、小さな成果を積み重ねることができました。一方で、部全員への配慮や練習の効率化など、反省点も多く残る一年でした。しかし私はまだ二年生、来年度も三年生として部長を続ける予定なので、この経験を活かして、部員全員が「この部に入って良かった」と思えるような環境を作りたいです。次こそは成果を出せる部活を目指し、全力で取り組みます。

弓道で学んだ悔しさと成長

福岡歯科大学 阿部 天音

私は大学に入ってから弓道を始めました。一年目のオンライン大会では個人戦で決勝に進めたものの、団体メンバーには選ばれず悔しい思いをしました。二年目には団体メンバーに入ることができましたが、今度は決勝進出を果たせず、大きな課題を感じました。初めて試合会場で目の当たりにしたハイレベルな戦いや美しい射形は憧れやモチベーションを高め、それ以降自主練に取り組むようになりました。

その結果、三年目の今年は団体メンバーとして試合に出場し、入賞することができました。しかしそこで見たハイレベルな戦いに、自分の未熟さを改めて痛感させられました。美しさの中を兼ね備えた射ができるよう、さらに練習を重ね、来年の大会ではより高い結果を目指したいと思います。

大学で弓道をしてみて

福岡女子大学 森 叶圭

多くの人が次に向けた意気込みや前向きな展望とともにこの進取の原稿を書いていると思いますが、全九が終わり、ならざるを得なくして新部長になった私は、後ろ向きな気持ちでこれを書いています。

高校生から始めた弓道ですが、当時は大好きでした。放課後決まった時間に当たり前に部員みんなが集まって練習し、競技もする。顧問の先生が来て指導してくれる。団体戦では上位大会に出場する喜びも知ることができました。大学でも弓道部に入ったのは、弓道が好きだったのももちろん、個人戦で結果を出せなかった悔しさを晴らしたかったからです。しかし、入ってみて知ったのは、ほとんどが練習に來ない幽霊部員で、顧問の先生も練習に來ることはないという事実でした。また、少ない部員で初心者を教えつつ自分たちも練習するというのはとても大変なことでした。一つ上の先輩二人の尽力のおかげで、二〇二三年、二〇二四年は様々な大会に出場することができましたが、個人でも団体でも結果を残すことはできませんでした。練習量の少なさが一番の原因だということはわかっていて、ほかに言い訳をするわけではありませんが、一緒に練習できるたくさんの方の仲間と指導をしてく

れる人の存在のありがたさを感じました。現在、先輩方が引退され、部の状況はさらに悪化しています。練習に参加できるのは私含め二、三名です。私は、大学入学当初の意欲と、部長として部を立て直す気力を失ってしまいました。次の部長が前向きな気持ちでこれを書くことができ、いつか福岡女子大学弓道部が発展することを願っています。

大会に向けて

南九州大学 松井 翔太朗

私は、高校時代勉強と弓道のみに力を入れており、文武両道の日々を過ごしていた。また、弓道では多くの先生や団体選手に出会い弓道に一生懸命取り組むことができた。しかし、高校時代では大きな大会で優勝することができなかったため、大学弓道を通して入賞したいと思い、日々練習し続けている。

さらに、チームメイトと協力して自分の弱点やチームの欠点を言い合いまた、試行錯誤をしてより強いチーム作りを頑張りたいと思う。弓道では強いからだと心が大事であり、日々の筋肉トレーニングや強い心身を鍛える練習を大切にしたい。

第68回西日本学生弓道選手権大会

期日：4月27,28日

主催：中四国学生弓道連盟

於：ジップアリーナ岡山

本大会成績

- [団体の部] (男子) 優勝 鹿 児 島 大 学
二 位 鹿 児 島 国 際 大 学
三 位 福 岡 大 学
- (女子) 優勝 福 岡 大 学
二 位 岡 山 商 科 大 学
三 位 九 州 大 学
- [個人の部] (男子) 優勝 吉 田 晴 喜(島 根 大 学)
二 位 税 所 玲 音(鹿 児 島 国 際 大 学)
三 位 小 林 晃 大(岡 山 大 学 医 学 部 歯 学 部)
- (女子) 優勝 上 杉 ひ び き(福 岡 大 学)
二 位 大 海 彩 夏(山 口 大 学)
三 位 山 本 愛 菜(岡 山 商 科 大 学)
- [最優秀射士賞] (男子) 谷 口 俊 輔(鹿 児 島 国 際 大 学)
(女子) 栗 栖 知 可 子(香 川 大 学)
- [最高の中者] (男子) 松 下 智 一(鹿 児 島 国 際 大 学)
(女子) 田 中 佑 実(福 岡 大 学)
- [射道優秀校] (男子) 鹿 児 島 国 際 大 学
(女子) 福 岡 大 学

団体予選立順結果（男子）

	大学名	1立目	2立目	合計	順位
1	愛媛大学	17	16	33	⑥
2	岡山県立大学	10	11	21	27
3	岡山商科大学	14	10	24	21
4	岡山大学	18	16	34	④
5	岡山大学医学部歯学部	17	16	33	⑥
6	岡山理科大学	11	13	24	21
7	久留米大学	7	8	15	42
8	近畿大学産業理工学部	9	4	13	43
9	九州共立大学	4	6	10	46
10	九州工業大学	12	8	20	32
11	九州産業大学	17	16	33	6
12	九州大学	17	15	32	10
13	熊本学園大学	16	13	29	14
14	熊本県立大学	8	9	17	39
15	熊本大学	15	16	31	12
16	広島経済大学	9	11	20	32
17	広島国際大学	9	10	19	36
18	広島修道大学	12	9	21	27
19	広島大学	20	14	34	④
20	広島大学医学部	16	9	25	19
21	香川大学	12	8	20	32
22	高知工科大学	10	12	22	25
23	高知大学	17	15	32	10
24	佐賀大学	12	11	23	23
25	山口大学	13	15	28	17
26	四国大学	14	15	29	14
27	鹿児島国際大学	19	21	40	①
28	鹿児島大学	21	19	40	①
29	就実大学	9	11	20	32
30	松山大学	9	7	16	41
31	崇城大学	10	9	19	36
32	西南学院大学	12	9	21	27
33	西日本工業大学	16	17	33	⑥

34	大分大学	9	10	19	36
35	長崎県立大学	6	5	11	45
36	長崎大学	11	18	29	14
37	鳥取大学	13	17	30	13
38	島根大学	12	15	27	18
39	徳島大学	12	11	23	23
40	日本経済大学	9	12	21	27
41	日本文理大学	5	8	13	43
42	福岡教育大学	11	11	22	25
43	福岡工業大学	15	10	25	19
44	福岡大学	22	14	36	③
45	福山大学	9	12	21	27
46	北九州市立大学	9	8	17	39

団体予選立順結果（女子）

	大学名	1立目	2立目	合計	順位
1	ノートルダム清心女子大学	1	3	4	53
2	愛媛大学	7	8	15	20
3	安田女子大学	3	4	7	45
4	岡山県立大学	4	7	1	35
5	岡山商科大学	11	8	19	(5)
6	岡山大学	6	9	15	20
7	岡山大学医学部歯学部	8	11	19	5
8	岡山理科大学	4	7	11	35
9	岡山理科大学獣医学部	2	5	7	45
10	久留米大学	3	2	5	50
11	宮崎大学	11	10	21	(2)
12	近畿大学産業理工学部	3	4	7	45
13	九州看護福祉大学	9	3	12	30
14	九州工業大学	6	9	15	20
15	九州産業大学	8	6	14	25
16	九州女子大学	1	2	3	56
17	九州大学	7	12	19	(5)
18	熊本学園大学	6	5	11	35
19	熊本県立大学	6	5	11	35
20	熊本大学	11	7	18	12
21	県立広島大学	9	7	16	17
22	広島経済大学	2	2	4	53
23	広島修道大学	7	5	12	30
24	広島大学	7	8	15	20
25	広島大学医学部	3	2	5	50
26	広島文教大学	4	8	12	30
27	香川大学	13	9	22	(1)
28	高知工科大学	7	7	14	25
29	高知大学	6	6	12	30
30	佐賀大学	7	9	16	17

	大学名	1立目	2立目	合計	順位
31	山口大学	9	7	16	17
32	四国大学	9	10	19	5
33	鹿児島国際大学	6	8	14	25
34	鹿児島大学	10	9	19	⑤
35	就実大学	5	6	11	35
36	松山大学	4	5	9	42
37	崇城大学	7	2	9	42
38	西南学院大学	9	12	21	②
39	西日本工業大学	6	5	11	35
40	川崎医療福祉大学	4	2	6	49
41	大分大学	3	1	4	53
42	筑紫女学園大学	5	9	14	25
43	長崎県立大学	4	4	8	44
44	長崎大学	10	10	20	④
45	鳥取大学	9	9	18	12
46	鳥取大学医学部	7	12	19	5
47	島根県立大学	4	1	5	50
48	島根大学	7	8	15	20
49	徳島大学	9	8	17	16
50	日本文理大学	5	7	12	30
51	福岡教育大学	4	3	7	45
52	福岡工業大学	9	9	18	12
53	福岡大学	9	10	19	⑤
54	福山大学	3	7	10	41
55	別府溝部学園短期大学	5	8	13	29
56	北九州市立大学	8	10	18	12

男子団体決勝リーグ戦成績表

		A	B	C	D	E	F	G	H	勝敗	総的中数	順位
A	鹿 児 島 大 学		(23)	(19)	(18)	(19)	(21)	(17)	(21)	7勝0敗	138	1
B	西 日 本 工 業 大 学	18		(21)	(15)	10	(21)	17	15	3勝4敗	117	5
C	愛 媛 大 学	17	16		(18)	18	13	(18)	17	2勝5敗	117	6
D	広 島 大 学	18	15	12		19	13	(17)	16	1勝6敗	110	7
E	福 岡 大 学	16	(21)	(21)	(19)		(18)	(16)	16	5勝2敗	127	3
F	岡 山 大 学	20	16	(19)	(21)	13		(18)	14	3勝4敗	121	4
G	岡山大学医学部歯学部	10	(19)	13	12	10	12		12	1勝6敗	88	8
H	鹿 児 島 国 際 大 学	19	(20)	(22)	(22)	(18)	(22)	(21)		6勝1敗	144	2

女子団体決勝リーグ戦成績表

		A	B	C	D	E	F	G	H	勝敗	総的中数	順位
A	岡 山 商 科 大 学		10	(12)	(9)	9	(9)	(12)	(11)	5勝2敗	72	2
B	香 川 大 学	(10)		4	(8)	7	10	10	(7)	3勝4敗	56	6
C	西 南 学 院 大 学	10	(13)		(11)	7	(12)	11	(12)	4勝3敗	76	4
D	鹿 児 島 大 学	5	6	8		10	(13)	7	(9)	2勝5敗	58	7
E	九 州 大 学	(11)	(9)	(13)	(10)		7	9	(9)	5勝2敗	69	3
F	宮 崎 大 学	8	(10)	10	8	(9)		5	(12)	3勝4敗	62	5
G	福 岡 大 学	9	(11)	(12)	(11)	(10)	(11)		9	5勝2敗	73	1
H	長 崎 大 学	8	4	8	6	6	8	(10)		1勝6敗	50	8

第36回全国大学弓道選拔大会

期 日:2024 年 6 月 29.30 日

主 催:全日学生弓道連盟、(公財)全日本弓道連盟

於 :全日本弓道連盟中央道場、明治神宮武道場至誠館弓道場

本大会成績

(男子)

優 勝 近 畿 大 学

二 位 筑 波 大 学

三 位 慶應義塾大学

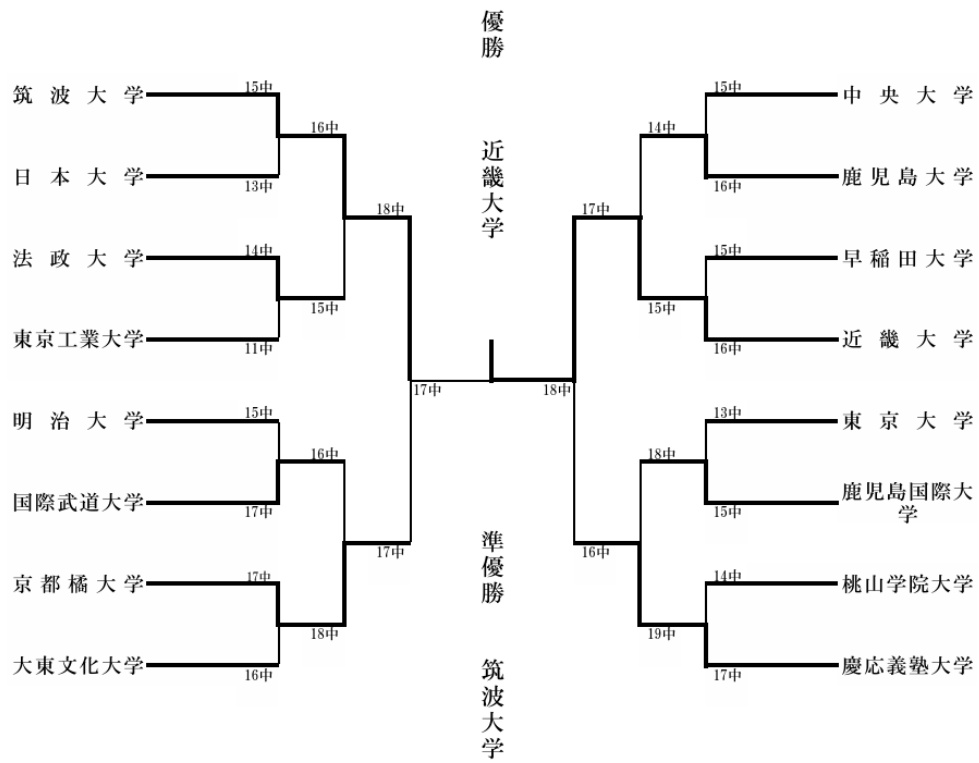
(女子)

優 勝 桜 美 林 大 学

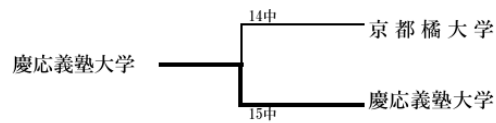
二 位 立 命 館 大 学

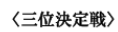
三 位 大 阪 経 済 大 学

男子団体決勝トーナメント



〈三位決定戦〉





第 7 4 回九州地区大学体育大会

期 日：7 月 6, 7 日

主 催：九州地区大学体育大会協議会

於：南栄リース桜島アリーナ

(鹿児島市桜島横山町)

男子団体決勝リーグ 大会結果

		A	B	C	D	E	F	G	H	勝	敗	総 的 中 数	順 位
		鹿児島国際大学	福岡大学	西日本工業大学	熊本大学	九州産業大学	宮崎大学	九州大学	鹿児島大学				
A	鹿児島国際大学		14	16	11	12	17	14	19	4勝	3敗	103	3
B	福岡大学	18		14	11	16	16	10	12	6勝	1敗	97	1
C	西日本工業大学	11	11		15	12	16	15	14	3勝	4敗	94	5
D	熊本大学	13	10	13		15	11	14	15	5勝	2敗	91	2
E	九州産業大学	14	12	14	13		12	12	12	4勝	3敗	89	4
F	宮崎大学	13	12	12	9	11		15	11	2勝	5敗	83	7
G	九州大学	11	14	12	13	13	15		11	3勝	4敗	89	6
H	鹿児島大学	11	11	14	13	8	9	9		1勝	6敗	75	8

【成績】

優勝	福岡大学	6勝	1敗
2位	熊本大学	5勝	2敗
3位	鹿児島国際大学	4勝	3敗
優秀射技校	九州大学		

女子団体決勝リーグ 大会結果

		a	b	c	d	e	f	g	h	勝 敗		総 的 中 数	順 位
		鹿児島大学	崇城大学	福岡工業大学	福岡大学	九州大学	熊本大学	長崎大学	宮崎大学				
a	鹿児島大学		6	6	7	5	6	3	5	1勝	6敗	38	7
b	崇城大学	6		6	10	7	7	10	7	3勝	4敗	53	4
c	福岡工業大学	7	6		7	8	8	8	8	3勝	4敗	52	5
d	福岡大学	9	10	7		8	10	9	9	7勝	0敗	62	1
e	九州大学	6	7	5	8		3	9	4	2勝	5敗	42	6
f	熊本大学	8	7	8	9	3		6	7	5勝	2敗	48	3
g	長崎大学	4	5	6	5	7	5		6	1勝	6敗	38	7
h	宮崎大学	6	8	9	6	6	6	8		5勝	2敗	49	2

【成績】

優勝	福岡大学	7勝	0敗
2位	宮崎大学	5勝	2敗
3位	熊本大学	5勝	2敗
優秀射技校	宮崎大学		

第72回全日本学生弓道選手権大会

期日：8月22,23,24日

主催：全日学生弓道連盟

於：グリーンアリーナ神戸

【団体の部】

(男子)

優勝 法政大学
準優勝 明治大学
三位 大東文化大学

(女子)

優勝 東北学院大学
準優勝 立命館大学
三位 札幌学院大学

【個人の部】

●男子

	〈決勝射詰〉	一尺二寸的	八寸的
優勝	佐藤 蒼 (早稲田大学1年)	〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
準優勝	斉藤 靖弥 (北海学園大学2年)	〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇×
三位	小林 樹生 (明治大学4年)	〇〇〇	〇〇〇〇〇×
四位	工藤 拓海 (日本大学1年)	〇〇〇	〇〇〇〇×
五位	須之内太陽 (大東文化大学4年)	〇〇〇	〇〇×
六位	村山 子龍 (日本大学4年)	〇〇〇	〇〇×
七位	中野 達也 (関西学院大学3年)	〇〇〇	〇〇×
八位	稲葉 侑真 (筑波大学3年)	〇〇〇	〇〇×
九位	寺師 大輔 (早稲田大学2年)	〇〇〇	〇〇×
十位	寺谷 仁良 (奈良県立医科大学3年)	〇〇〇	〇〇×

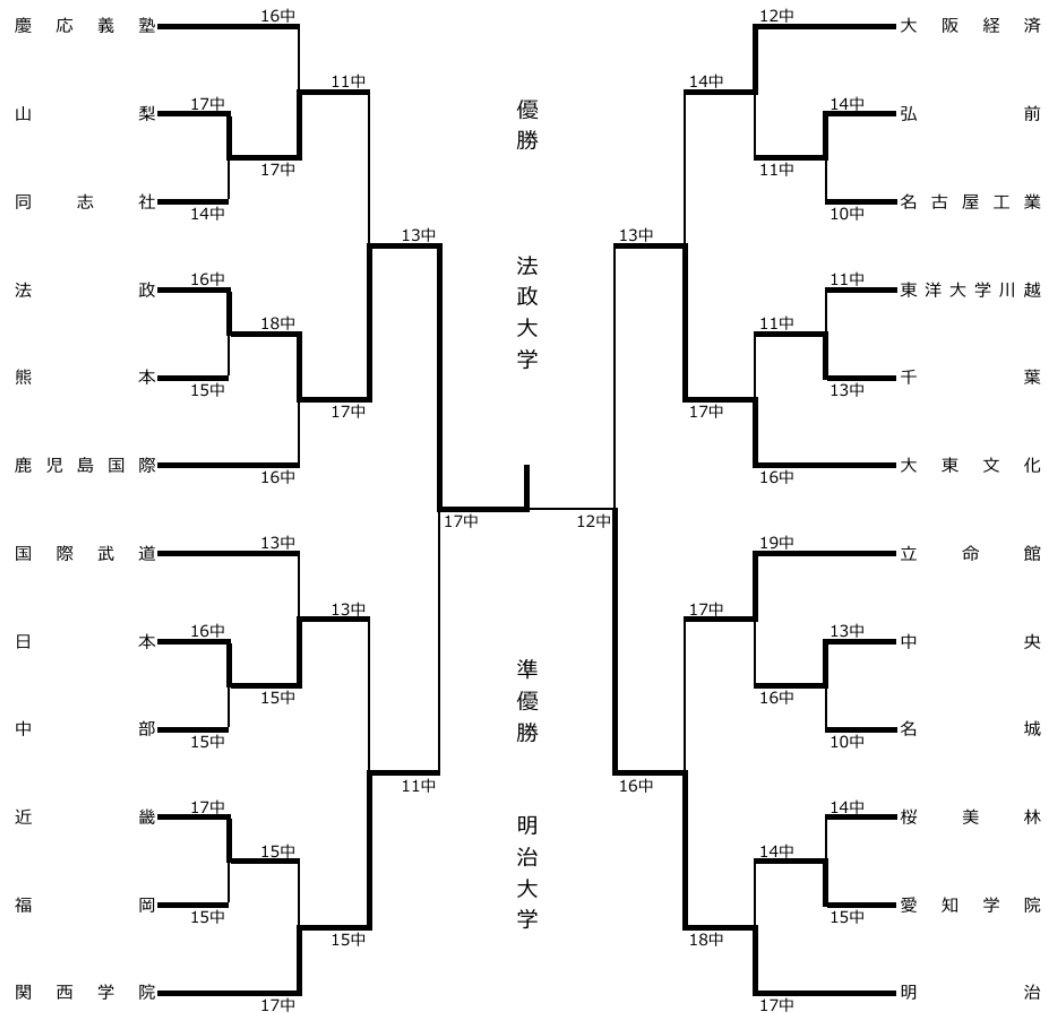
※五位～十位は遠近競射により決定致しました。

●女子

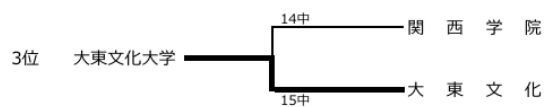
	〈決勝射詰〉	一尺二寸的	八寸的
優勝	溝口 千織 (大阪経済大学2年)	〇〇〇	〇〇〇〇
準優勝	吉岡 美紀 (日本大学1年)	〇〇〇	〇〇〇×
三位	佐藤 愛澄 (鹿児島国際大学1年)	〇〇〇	〇〇×
四位	岩坂 玲奈 (早稲田大学2年)	〇〇〇	〇×
五位	小池輝来々 (筑波大学2年)	〇〇〇	〇×
六位	内山 水葵 (札幌学院大学3年)	〇〇〇	〇×
七位	長妻 奏音 (福岡工業大学2年)	〇〇〇	〇×
八位	豊本 結子 (横浜市立大学2年)	〇〇〇	〇×
九位	湯川 可蓮 (関西学院大学4年)	〇〇〇	×
十位	吉田 鈴 (弘前大学3年)	〇〇〇	×

※四位～八位、九位～十位は遠近競射により決定致しました。

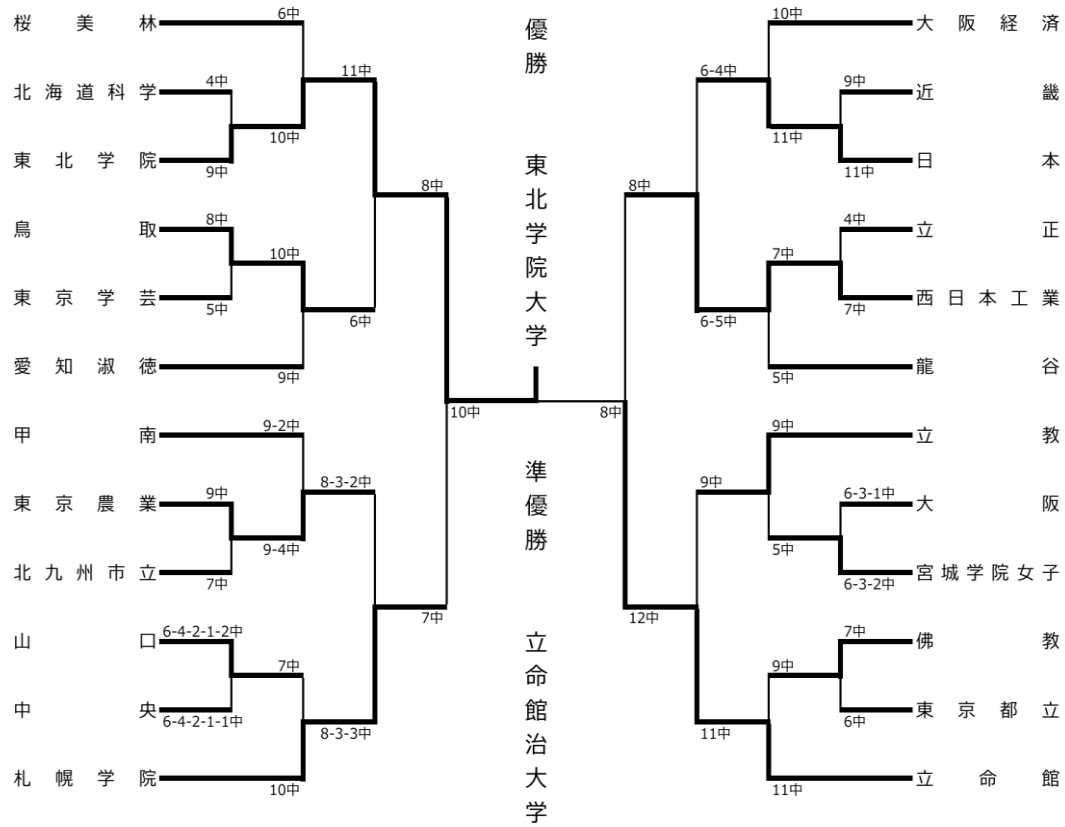
男子団体決勝トーナメント表



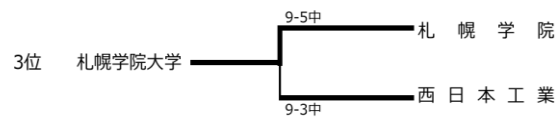
〈三位決定戦〉



女子団体決勝トーナメント表



〈三位決定戦〉



第62回九州学生弓道選手権大会

期日：10月23日～25日
主催：九州学生弓道連盟
於：アクシオン福岡

本大会成績

【団体の部】

(男子)

優勝 鹿児島大学
準優勝 西日本工業大学
三位 福岡大学

(女子)

優勝 熊本大学
準優勝 鹿児島国際大学
三位 九州大学

【個人の部】

(男子)

優勝 税所 玲音 (鹿児島国際大学)
準優勝 高橋 怜央 (鹿児島大学)
三位 大野 倅奨 (宮崎大学)
四位 川野 康太 (熊本大学)
五位 坂本 皓 (鹿児島国際大学)
六位 高尾 真叶 (鹿児島大学)
七位 古河 誠矢 (大分大学)
八位 松下 智一 (鹿児島国際大学)
九位 田辺 敬太 (熊本大学)
十位 安藤 航士 (鹿児島国際大学)

(女子)

優勝 本山 愛菜 (別府溝部学園短期大学)
準優勝 森原あゆみ (西南学院大学)
三位 古賀みふゆ (久留米大学)
四位 上杉ひびき (福岡大学)
五位 松本 桜依 (近畿大学産業理工学部)
六位 木村 日咲 (九州大学)
七位 東野 木春 (日本経済大学)
八位 松園 美咲 (長崎県立大学)
九位 中村 優里 (宮崎大学)
十位 平原 百花 (熊本大学)

【最優秀射士賞】

(男子)

大野 倅奨 (宮崎大学)

(女子)

平原 百花 (熊本大学)

【優秀射技校】

(男子)

熊本大学

(女子)

熊本大学

【東西対抗戦出場選手】

(男子)

林田悠季 (福岡大学)
高尾真叶 (鹿児島大学)
松下智一 (鹿児島国際大学)
山野弘孝 (鹿児島大学)

(女子)

佐藤愛澄 (鹿児島国際大学)
平原百花 (熊本大学)
森さくら (長崎大学)
樋口佳音 (西南学院大学)

【全日本学生弓道王座決定戦出場校】

鹿児島大学

【全日本学生弓道女子王座決定戦出場校】

熊本大学

【全国学生弓道選抜大会出場校】

(男子)

鹿児島大学
西日本工業大学
福岡大学

(女子)

熊本大学
鹿児島国際大学
西南学院大学

男子団体予選

	大学名	1立目	2立目	合計	競射	順位
1	日本経済大学	11	18	29		16
2	久留米大学	9	6	15		25
3	南九州大学	8	6	14		26
4	鹿児島国際大学	23	27	50		①
5	西日本工業大学	24	24	48		③
6	大分大学	17	13	30		13
7	宮崎大学	13	20	33		9
8	熊本学園大学	12	20	32		11
9	九州大学	21	20	41		⑤
10	佐賀大学	13	15	28		18
11	九州共立大学	6	14	20		23
12	熊本県立大学	15	17	32		11
13	福岡工業大学	19	18	37		⑦
14	九州工業大学工学部	16	14	30		13
15	長崎県立大学	8	8	16		24
16	崇城大学	14	14	28		18
17	鹿児島大学	26	24	50		①
18	北九州市立大学	12	17	29		16
19	熊本大学	18	26	44		④
20	長崎大学	16	17	33		9
21	九州産業大学	18	18	36		⑧
22	福岡大学	22	19	41		⑤
23	近畿大学産業理工学部	14	12	26		20
24	西南学院大学	14	16	30		13
25	福岡教育大学	14	11	25		21
26	九州工業大学情報工学部	10		10		27
27	琉球大学	10	14	24		22
28	日本文理大学					

女子団体予選

	大学名	1立目	2立目	合計	競射	順位
1	北九州市立大学	9	7	16	4	9
2	崇城大学	6	8	14		11
3	宮崎大学	8	12	20		①
4	鹿児島大学	9	9	18		④
5	福岡教育大学	5	6	11		20
6	別府溝部学園短期大学	5	7	12		16
7	熊本県立大学	7	7	14		11
8	近畿大学産業理工学部	7	5	12		16
9	長崎大学	8	12	20		①
10	九州女子大学	2	0	2		27
11	熊本大学	9	7	16	5	⑧
12	九州工業大学工学部	5	4	9		21
13	九州産業大学	6	7	13		14
14	西日本工業大学	5	7	12		16
15	福岡大学	7	7	14		11
16	筑紫女学園大学	5	3	8		23
17	日本文理大学					
18	琉球大学	2	1	3		26
19	熊本学園大学	5	8	13		14
20	佐賀大学	4	5	9		21
21	大分大学	2	5	7		24
22	久留米大学	7	8	15		10
23	長崎県立大学	8	10	18		④
24	日本経済大学	7	5	12		16
25	西南学院大学	7	10	17		⑥
26	福岡女子大学	4	3	7		24
27	鹿児島国際大学	12	8	20		①
28	九州大学	9	8	17		⑥
29	福岡工業大学	2		2		27

男子決勝リーグ表

		A	B	C	D	E	F	G	H	勝	負	総的中数
A	福岡大学		23	26	18	25	26	27	24	5	2	169
B	九州大学	21		25	15	19	23	18	17	1	6	138
C	西日本工業大学	28	24		24	21	23	25	25	6	1	170
D	鹿児島大学	31	28	18		28	25	24	25	6	1	179
E	熊本大学	24	21	18	21		22	21	20	4	3	147
F	鹿児島国際大学	24	25	21	23	18		27	29	3	4	167
G	福岡工業大学	21	18	20	22	18	20		14	1	6	133
H	九州産業大学	21	27	19	22	19	19	22		2	5	149

女子決勝リーグ表

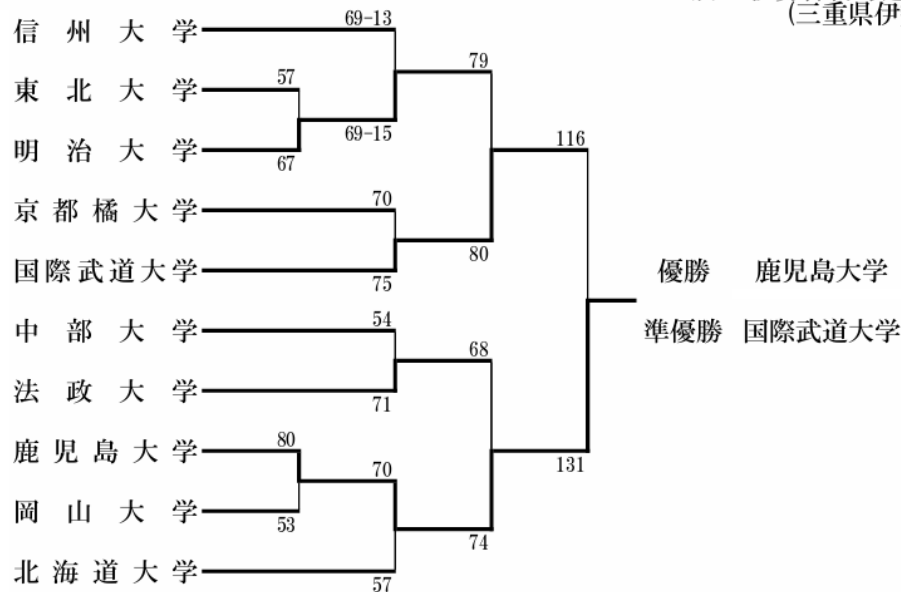
		A	B	C	D	E	F	G	H	勝	負	総的中数	順位
A	熊本大学		14	14	12	7	13	11	10	7	0	81	1
B	長崎大学	8		9	5	12	8	9	10	3	4	61	5
C	宮崎大学	8	8		7	7	10	11	9	2	5	60	7
D	長崎県立大学	7	6	7		10	8	8	9	2	5	55	8
E	鹿児島大学	6	10	10	10		5	7	9	3	4	57	6
F	九州大学	6	11	10	10	5		11	7	4	3	60	3
G	鹿児島国際大学	9	10	9	8	10	10		10	4	3	66	2
H	西南学院大学	8	9	10	9	10	8	9		3	4	63	4

第72回全日本学生弓道王座決定戦 男子の部

第70回東西学生弓道選抜対抗試合 男子の部

◎王座決定戦

期日 11月23日～24日
主催 全日本学生弓道連盟
於 伊勢神宮弓道場
(三重県伊勢市)



優勝 鹿児島大学 (初優勝)

準優勝 国際武道大学

最優秀選手 高尾 真叶 (鹿児島大学 3年)

優秀選手 山野 弘孝 (鹿児島大学 4年)
宇野女珠導 (国際武道大学 4年)

松永 明輝 (鹿児島大学 2年)

皆中者 成瀬 明 (国際武道大学 3年)
柴田 拓実 (法政大学 4年)
中村 衣吹 (京都橘大学 1年)
山野 弘孝 (鹿児島大学 4年)
若林 優弥 (明治大学 3年)
宮下 雄琉 (明治大学 1年)

石田 光星 (国際武道大学 1年)
澁屋 太紀 (法政大学 3年)
高橋 怜央 (鹿児島大学 4年)
高尾 真叶 (鹿児島大学 3年)
中嶋 航大 (明治大学 2年)

◎東西対抗戦

優勝 西軍 (2大会連続 16回目)

準優勝 東軍

最優秀選手 高尾 真叶 (鹿児島大学 3年)

優秀選手 松下 智一 (鹿児島国際大学 3年)

佐藤 蒼 (早稲田大学 1年)

皆中者 高尾 真叶 (鹿児島大学 3年)

松下 智一 (鹿児島国際大学 3年)

第72回全日本学生弓道王座決定戦（優勝決定戦）

先攻 国際武道大学

立順	選手名	学年	記 録					計
			I	II	III	IV	V	
1	道 下 叶 夢	3	〇〇〇〇	×〇〇〇	×〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	16
2	齋 藤 壮 甫	2	〇〇〇〇	〇〇×〇	×〇×〇	〇〇〇〇	〇×〇〇	16
3	ノイネルト・フィリップ	1	×〇〇〇	××〇〇	××〇〇	〇×××	〇〇××	10
4	石 田 光 星	1	××〇×	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇×	〇〇〇〇	16
小計			12	12 / 24	10 / 34	11 / 45	13	58
5	宇 野 女 珠 導	4	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	19
6	松 代 秀 真	3	〇〇〇×	〇〇×〇	〇××〇	〇〇××	〇×××	11
7	成 瀬 明	3	〇〇〇〇	〇〇××	××〇×	〇〇〇〇	〇〇〇〇	15
8	黒 瀬 洸 翔	1	〇××〇	×〇〇×	×〇××	〇〇〇〇	〇〇〇〇	13
小計			13	11 / 24	7 / 31	14 / 45	13	58
合計			25	23 / 48	17 / 65	25 / 90	26	116

選手交代：8番9射目より星野青空、8番13射目より藤塚大和、3番17射目より袴田航平、6番17射目より山崎晴斗

後攻 鹿児島大学

立順	選手名	学年	記 録					計
			I	II	III	IV	V	
1	平 松 大 和	1	×〇×〇	〇×〇〇	×××〇	〇〇××	〇×〇×	10
2	松 永 明 輝	2	〇〇〇×	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	19
3	高 橋 怜 央	4	〇〇〇〇	〇〇〇〇	×〇〇〇	××〇〇	〇〇〇〇	17
4	高 尾 真 叶	3	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	20
小計			13	15 / 28	12 / 40	12 / 52	14	66
5	馬 場 晴 夢	3	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇××〇	〇〇×〇	16
6	川 原 良 太	3	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇×	〇〇〇〇	〇〇×〇	18
7	山 野 弘 孝	4	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	×〇〇〇	〇〇〇〇	19
8	波 多 野 晴 太	4	〇×〇〇	〇〇×〇	〇××〇	〇〇××	〇××〇	12
小計			15	15 / 30	12 / 42	11 / 53	12	65
合計			28	30 / 58	24 / 82	23 / 105	26	131

選手交代：1番13射目より福竜征宗、8番13射目より内山優士、8番17射目より宝満寿樹

第70回東西学生弓道選抜対抗試合

東軍 監督 石川 賢治(法政大学)

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	若 林 優 弥	3	×○○○	××○○	○○○○	○○○×	○○○○	16
2	人 見 伊 織	2	××○×	○×××	×○×○	×○×○	○○○○	10
3	成 瀬 明	3	○○○○	○○○○	○×○○	○×○○	×○×○	16
4	増 田 啓 吾	2	○○○○	×○○×	○○○×	×○○○	×××○	13
5	佐 藤 蒼	1	×○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	19
小計			15	13 / 28	16 / 44	15 / 59	15	74
6	森 岡 優 介	3	○×○○	×○○○	○×○○	○○○○	○○○○	17
7	柴 田 幸 次 郎	2	○○××	○○○○	○○○○	○○×○	×○○○	16
8	稲 葉 侑 真	3	○○○○	○○○○	○○○○	×○○○	○○×○	18
9	繁 田 舟 蔵	1	×○×○	×○○○	○○○×	×○×○	○○○○	14
10	藤 森 翔	4	○○○○	○××○	×○○○	○○○○	○××○	15
小計			15	16 / 31	17 / 48	16 / 64	16	80
小計			30	29 / 59	33 / 92	31 / 123	31	154

選手交代:2番9射目より穴田駿平、9番13射目より佐々木新之助、2番17射目より西村太志

西軍 監督 竹内淳一(立命館大学)

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	林 田 悠 季	3	○○○○	○○×○	○○○○	○○○×	○○○○	18
2	長 繁 涼 平	2	×○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	19
3	宮 崎 圭 佑	3	×○○×	××○○	×○×○	○×○○	×○××	10
4	山 野 弘 孝	4	○○○×	○○○○	○○○○	○○○○	○○×○	18
5	高 尾 真 叶	3	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	20
小計			16	17 / 33	18 / 51	18 / 69	16	85
6	松 下 智 一	3	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	20
7	富 田 壮 亮	2	○○○○	○×○○	○○○○	○○×○	×○○○	17
8	奥 太 優	3	○○○○	×○○○	○○○○	○○○×	○○○○	18
9	久 光 元	3	×○××	○×○×	○×○○	○×○○	○×○○	12
10	谷 澤 翔 太	4	○○○○	×○○×	××○○	○××○	×○○○	13
小計			17	14 / 31	17 / 48	15 / 63	17	80
小計			33	31 / 64	35 / 99	33 / 132	33	165

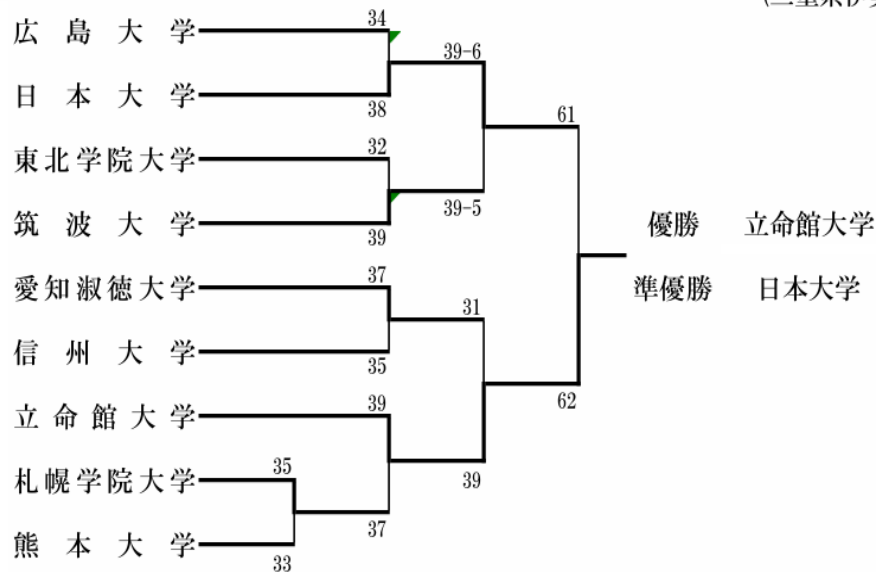
選手交代:3番9射目より藤間温也、9番9射目より宮本青空、3番17射目より大場来嗣

第48回全日本学生弓道王座決定戦 女子の部

第48回東西学生弓道選抜対抗試合 女子の部

◎王座決定戦

期日 11月25日～26日
主催 全日本学生弓道連盟
於 伊勢神宮弓道場
(三重県伊勢市)



優勝 立命館大学 (初優勝)

準優勝 日本大学

最優秀選手 丸山 来夏 (立命館大学 2年)

優秀選手 石山 和奏 (立命館大学 2年)

皆中者 千明 望々 (日本大学 3年)

鈴木 綾華 (愛知淑徳大学 4年)

吉岡 美紀 (日本大学 1年)

吉岡 美紀 (日本大学 1年)

◎東西対抗戦

優勝 東軍 (2大会ぶり30回目)

最優秀選手 吉田 鈴 (弘前大学 3年)

優秀選手 吉岡 美紀 (日本大学 1年)

皆中者 吉田 鈴 (弘前大学 3年)

丸山 来夏 (立命館大学 2年)

準優勝 西軍

丸山 来夏 (立命館大学 2年)

吉岡 美紀 (日本大学 1年)

第48回全日本学生弓道王座決定戦（優勝決定戦）

先攻 立命館大学

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	安 藤 真 凜	4	〇〇〇×	〇〇〇×	〇×〇×	〇〇〇〇	×〇××	13
2	中 嶋 唯 乃	1	〇××〇	×〇〇〇	×〇〇〇	×〇〇〇	〇〇〇×	14
3	石 山 和 奏	2	××〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇×	〇〇〇〇	〇〇〇〇	17
4	丸 山 来 夏	2	〇〇〇〇	〇〇〇〇	×〇〇×	〇〇〇〇	〇〇〇〇	18
合計			11	14 / 25	10 / 35	15 / 50	12	62

選手交代：1番13射目より落合珠梨

後攻 日本大学

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	林 里 穂	1	〇××〇	〇〇〇〇	××〇〇	×〇×〇	×〇〇×	12
2	松 瀬 天 愛	1	〇〇〇〇	〇×〇×	〇〇〇〇	〇〇××	〇〇〇×	15
3	吉 岡 美 紀	1	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇×〇	18
4	千 明 望 々	3	××〇〇	〇〇×〇	〇〇〇〇	〇×〇〇	〇〇〇〇	16
合計			12	12 / 24	14 / 38	11 / 49	12	61

選手交代：なし

第 4 8 回東西学生弓道選抜対抗試合

東軍 監督 虎谷 誠二(日本大学監督)

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	吉 岡 美 紀	1	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	20
2	林 里 穂	1	×〇××	××〇〇	××〇〇	〇〇〇〇	〇××〇	11
3	西 優 姫 乃	3	〇×〇×	〇〇×〇	〇〇〇×	〇〇〇〇	〇×〇〇	16
4	江 草 琥 珀	2	〇〇×〇	〇〇××	×〇×〇	〇〇〇×	〇〇×〇	13
5	小 川 貴 子	4	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇×〇〇	〇〇〇〇	×〇〇〇	18
小計			14	15 29	14 43	19 62	15	77
6	加 藤 ほ の 美	2	〇〇〇〇	×〇〇〇	×〇×〇	〇〇〇〇	〇×〇×	15
7	佐 野 華	1	〇×〇〇	〇〇〇〇	〇×〇〇	×〇〇〇	×〇〇〇	17
8	赤 澤 千 咲	1	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	19
9	吉 田 鈴	3	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	20
10	見 米 彩	4	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	19
小計			19	18 37	17 54	19 73	17	90
小計			33	33 66	31 97	38 135	32	167

選手交代: 2番9射目より堀部加奈、3番13射目より隈崎幸葉、4番13射目より城島汐桜

西軍 監督 竹内 淳一(立命館大学監督)

立順	選手名	学年	記録					計
			I	II	III	IV	V	
1	石 山 和 奈	2	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇×	〇〇〇〇	19
2	溝 口 千 織	2	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	×〇〇〇	〇〇〇〇	19
3	山 本 詩 織	1	×〇〇〇	×〇〇〇	×〇〇×	〇××〇	〇×〇〇	13
4	山 中 悠 莉	1	×〇〇〇	〇〇××	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	17
5	丸 山 来 夏	2	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	20
小計			18	17 35	18 53	16 69	19	88
6	佐 藤 愛 澄	1	〇〇〇×	〇〇〇〇	〇〇×〇	×〇〇〇	×〇〇〇	16
7	森 さ く ら	3	×〇×〇	×〇〇×	〇×〇×	〇〇〇〇	〇〇×〇	13
8	平 原 百 花	3	×〇〇×	×〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇×〇〇	15
9	藤 井 遥 香	3	×〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇×〇	〇〇〇〇	17
10	川 合 絢 子	4	〇〇〇〇	×〇〇×	〇〇×〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	17
小計			13	15 28	16 44	17 61	17	78
小計			31	32 63	34 97	33 130	36	166

選手交代: 7番9射目より鈴木綾華、3番13射目より樋口佳音、8番17射目より青山華加

第1回九州地区百射会・記録会

期 日：2024年9月7日、9月8日

主 催：九州学生弓道連盟

於：久留米アリーナ弓道場

百射会

- 1位 松下 智一（鹿児島国際大学3年）93中
- 2位 高尾 真叶（鹿児島大学3年）92中
- 3位 小山竜太郎（鹿児島国際大学3年）88中
- 4位 税所 玲音（鹿児島国際大学3年）86中
- 5位 堤 海（西日本工業大学2年）85中

連中賞

- 高尾 真叶（鹿児島大学3年）50連中
- 松下 智一（鹿児島国際大学3年）29連中
- 小山竜太郎（鹿児島国際大学3年）27連中

記録会

- 1位 平原 百花（熊本大学3年）49中
- 2位 松元 瑚恋（鹿児島国際大学1年）46中
- 3位 樋口 佳音（西南学院大学4年）42中
- 4位 古江 真優（福岡大学4年）39中
- 5位 木村 日咲（九州大学2年）39中

連中賞

- 平原 百花（熊本大学3年）15連中
- 松元 瑚恋（鹿児島国際大学1年）13連中

第2回九州地区百射会・記録会

期 日：2025年3月21日、3月22日
主 催：九州学生弓道連盟
於：福岡市総合体育館弓道場

百射会

- 1位 川原良太（鹿児島大学 3 年）94 中
- 2位 坂本 皓（鹿児島国際大学1年）93 中
- 3位 松下智一（鹿児島国際大学 3 年）90 中
- 4位 林田悠季（福岡大学 3 年）88 中
- 5位 税所玲音（鹿児島国際大学 3 年）85 中

連中賞

- 川原良太（鹿児島大学 3 年）48 連中
- 坂本 皓（鹿児島国際大学 1 年）26 連中
- 大野倅奨（宮崎大学 1 年）26 連中

記録会

- 1 位 松元瑚恋（鹿児島国際大学 1 年）52 中
- 2 位 坂崎紫麻（熊本学園大学 2 年）51 中
- 3 位 佐藤愛澄（鹿児島国際大学 1 年）49 中
- 4 位 上田 緋音（九州工業大学工学部 2 年）47 中
- 5 位 北岡由衣（崇城大学 2 年）45 中

連中賞

- 坂崎紫麻（熊本学園大学 2 年）21 連中
- 松元瑚恋（鹿児島国際大学 1 年）15 連中
- 上田 緋音（九州工業大学工学部 2 年）14 連中

九州学生弓道連盟役員

令和7年3月1日現在

会		長	中	村	幸	一	(九州学生弓道連盟会長)
副	会	長	山	口	政	俊	(福岡大学)
委	員	長	石	橋	百々	香	(福岡大学)
副	員	長	高	永	寛	太	(福岡大学)
副	委	長	南		夏	凜	(福岡大学)
広	報	補	諏	訪	丈	寛	(福岡大学)
会	計	補	丸	田	夏	凜	(福岡大学)
会	計	補	長	尾	光	留	(福岡大学)
書	営	委	辻		秀	華	(福岡大学)
運			川	添	琉	暉	(福岡大学)
	同		飯	塚	咲	三	(西南学院大学)
	同		末	吉	剣	祥	(福岡教育大学)
	同		重	野	心	華	(九州産業大学)
	同		吉	村	拓	真	(九州産業大学)
	同		三	枝	啓	珠	(福岡大学)
	同		田	中	佑	実	(福岡大学)
	同		小	林	愛	望	(九州大学)
	同		今	井	涼	凱	(西南学院大学)
	同		當	眞	寧	菜	(西南学院大学)
	同		成	富	眞	陽	(西南学院大学)
	同		藤	本	実	桜	(福岡大学)
	同		梅	津	康	平	(福岡大学)
	同		岡		結和	理	(福岡大学)
	同		武	野	真	子	(福岡大学)
	同		安	藤		響	(福岡教育大学)
	同		加	藤	参	太	(福岡教育大学)
	同		吉	田	祐	介	(福岡教育大学)
	同		大	西	宥	宇	(九州大学)
	同		平	松	奈	倅	(九州大学)
	同		安	田	遥	翔	(九州産業大学)
	同		倉	住	杏	奈	(九州産業大学)
	同		柳		凜	太郎	(西南学院大学)
	同		高	崎		和	(西南学院大学)

九州学生弓道連盟校一覧

令和 7 年 3 月 1 日現在

〈正加盟校〉

大 分 大 学	〒870-1124	大分市旦野原 700 ☎097 (554) 7446
鹿 児 島 大 学	〒890-0065	鹿児島市郡元 1 丁目-21-24 ☎099 (285) 7320
鹿 児 島 国 際 大 学	〒891-0191	鹿児島市福元町 8850 ☎099 (261) 3211
北 九 州 市 立 大 学	〒802-8577	北九州市小倉南区北方 4 丁目 2-1 ☎093 (964) 4004
九 州 大 学	〒819-0385	福岡市西区元岡 744 ☎092 (642) 2111
九 州 共 立 大 学	〒807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8 ☎093 (693) 3241
九 州 工 業 大 学 工 学 部	〒804-0015	北九州市戸畑区仙水町 1-1 ☎093 (871) 1931
九 州 産 業 大 学	〒813-0004	福岡市東区松高台 2 丁目 3-1 ☎092 (673) 5571
九 州 歯 科 大 学	〒803-0844	北九州市小倉北区真鶴 2 丁目 3-1 ☎093 (285) 3011
九 州 女 子 大 学	〒807-8568	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-1 ☎093 (693) 3087
近 畿 大 学 産 業 理 工 学 部	〒820-0011	飯塚市柏の森 11-63 号館 ☎0948 (22) 5655
熊 本 大 学	〒860-0862	熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号 ☎096 (342) 2126
熊 本 学 園 大 学	〒862-0971	熊本市中央区大江 2 丁目 5-1 ☎096 (372) 7279
熊 本 県 立 大 学	〒862-0920	熊本市東区月出 3 丁目 1-100 ☎096 (383) 7896
久 留 米 大 学	〒839-0851	久留米市御井町 1635 ☎0942 (44) 2712

佐賀大学	〒840-8502	佐賀市本庄町 1 本部 ☎0952 (28) 8717
西南学院大学	〒814-0002	福岡市早良区西新 6 丁目 2-92 ☎092 (823) 3311
崇城大学	〒860-8691	熊本市西区池田 4 丁目 22-1 ☎096 (326) 3408
中村学園大学	〒814-0198	福岡市城南区別府 5 丁目 7-1 ☎092 (851) 2593
長崎大学	〒852-8131	長崎市文教 1-14 ☎095 (819) 2071
長崎県立大学	〒858-0914	佐世保市川下町 123 ☎0956 (47) 5703
西日本工業大学	〒800-0344	福岡県京都郡苅田町新津 1 丁目 11 ☎0930 (23) 1494
日本経済大学	〒818-0125	太宰府市五条 3 丁目 11-25 ☎092 (921) 9815
日本文理大学	〒870-0268	大分市一木 1727 ☎097 (524) 2700
福岡大学	〒814-0133	福岡市城南区七隈 8 丁目 19-1 ☎092 (871) 6631
福岡教育大学	〒811-4192	宗像市赤間文教町 1-1 ☎0940 (35) 1258
福岡工業大学	〒811-0214	福岡市東区和白東 3 丁目 30-1 ☎092 (606) 0654
別府大学	〒874-0000	別府市北石垣 82 ☎0977 (66) 9622
別府溝部学園短期大学	〒874-8567	別府市亀川中央町 29-10 ☎0977 (66) 0224
宮崎大学	〒889-2155	宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 ☎0985 (58) 7976
琉球大学	〒903-0213	沖縄県中頭郡西原町千原 1 ☎098 (895) 8127

〈準加盟校〉

九州看護福祉大学	〒865-0062	熊本県玉名市富尾 888 ☎0968 (75) 1854
九州工業大学情報工学部	〒820-0067	飯塚市川津 680-4 ☎0948 (29) 7524
第一薬科大学	〒815-8511	福岡市南区向野 22-1 ☎092 (541) 0161
福岡歯科大学	〒814-0175	福岡市早良区田村 2 丁目 15-1 ☎092 (801) 1884
福岡女子大学	〒813-8529	福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1 ☎092 (661) 2418
南九州大学	〒884-0003	宮崎県都城市立野町 3764-1 ☎0985 (83) 3435

令和 6 年度九州学生弓道連盟会計決算報告

(令和 5 年 8 月 1 日～令和 6 年 9 月 15 日)

<収入の部>

連盟費・部員登録費	1,478,100 円
罰金	45,000 円
利息	54 円
前年度繰越金	440,099 円
合計	1,963,253 円

<支出の部>

全九運営・備品費	356,210 円
全九・西日援助金	200,000 円
百射会運営費	149,686 円
王座・東西・選抜援助金	265,000 円
役員派遣費	164,790 円
遠隔試合通信費	15,573 円
進取	356,000 円
通信費	26,220 円
雑費・消耗品費	105,300 円
諸口費	95,141 円
合計	1,753,920 円

次期繰越金	209,333 円
-------	-----------

令和 6 年 10 月 1 日
九州学生弓道連盟 会計 川原寛子

九州学生弓道連盟規約

(二〇二四年十月二十二日改正)

第一編 機 構

第一章 総 則

第一 条 本連盟は九州学生弓道連盟と称す。

第二 条 本連盟は、各大学弓道部相互の親睦を図り、

弓道の研究とその発展を期することを目的とする。

第三 条 改正後の規約の規定は、改正前に生じた事項に

も適用する。ただし、改正前の規定により生じた

効力を妨げない。

第二章 組 織

第四 条 本連盟は、その加盟する九州地区(福岡、佐賀、

長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)の大学

弓道部をもって組織する。

第五 条 本連盟は、他の全国八地区(北海道、東北、北

信越、関東、東京都、東海、関西、中四国地区)

の学生弓道連盟と共に全日本学生弓道連盟を組織

し、学生弓道の発展に貢献する。

第六 条 本連盟は委員長の所属する大学弓道部内に

本部を置く。

第三章 事 業

第七 条 本連盟は後述の事業を行う。

一、九州学生弓道選手権大会

一、西日本学生弓道選手権大会(中四国学生弓道

連盟との合同開催)

一、九州地区百射会・記録会

一、機関誌『進取』の発行

一、他の弓道団体及び各種運動団体との連絡協調

一、その他本連盟の目的に適する事業

第四章 役 員

第八 条 本連盟に次の役員を置く。

会 長 一名

副 会 長 若干名

顧 問 若干名

委 員 長 一名

副 委 員 長 一名

副委員長広報 一名

広 報 補 佐 一名

会 計 補 佐 一名

会 計 補 佐 一名

書記 一名
運営委員 若干名
大会委員長 若干名
学連委員 加盟大学弓道部より一名

第九 条

①会長・副会長・顧問の任期は原則、就任より二年間とする。ただし、再選を妨げない。
②委員長・副委員長・副委員長広報・広報補佐・会計・会計補佐・書記・運営委員・大会委員長の任期は九州学生弓道選手権大会前の委員会より翌年の同委員会までの約一年間とする。また、補選によりこれらの役員になる者の任期は、前任期の残余期間とする。
③委員長・副委員長・副委員長広報・広報補佐・会計・会計補佐・書記については兼任可能とする。兼任が起り得る場合は、役員の任期交代後、必要に応じて執行委員会を開き、その場で是非を問う。

第十 条 会長・副会長は、委員長が候補者をあげ委員会での承認を経てこれを推薦する。

第十一 条 会長は本連盟を代表する。副会長は会長事故がある時、これを代理する。

第十二 条 本連盟は必要により顧問をおくことができる。

顧問は執行委員会の議を経て会長がこれを推す。顧問は、本連盟の運営の円滑化のため助力に当たる。

第十四 条

一、運営委員は各加盟校相互に連絡を取り、併せて本連盟の庶務及び大会運営を処置する。また運営委員は本連盟加盟校より選出する。

一、学連委員は、所属大学弓道部の活動予定及び状況を連盟本部宛連絡する義務を負う。

第十五 条 執行委員会は、委員長・副委員長・副委員長広報・運営委員をもって構成し、適時これを開く。

第十六 条 次期連盟委員長は、連盟執行委員会がこれを選出する。新連盟委員長は、副委員長以下で連盟執行委員を任命する。大会委員長は当該年の九州学生弓道選手権大会主管校及び本連盟加盟校持ち回り年の西日本学生弓道選手権大会主管校より一名ずつ選出する。

第十七 条 ①更迭は連盟役員および加盟校の過半数の要求があった場合に発議され、委員長は臨時委員会を招集しなければならない。
②臨時委員会において更迭を決議する場合、

学連委員による三分の二以上の議決をもって当該役員を更迭することができる。

第五章 会 議

第十八条

一、本連盟の会議は委員会とする。

一、委員会は委員長・副委員長並びに学連委員で構成し、議決権は学連委員のみが有する。

第十九条

委員会は、毎年一回九州学生弓道選手権大会開催地において開催する。ただし緊急事項のある時は、連盟委員長は臨時委員会を招集することができる。

第二十条

委員会は本連盟に関する事項の審議及び決定を行なう。

第二十一条

委員会は、本連盟の最高の議決機関であり連盟委員長は会議において議長となる。

第二十二条

一、委員会は総数の三分の二以上の出席をもって成立する。ただし、委任状をもって出席を認めることができる。

一、加盟校は正当な理由なく委員会を欠席することはできない。

一、欠席する場合、その旨を委員会前日までに委員長へ申告する

第二十三条

決議は、出席した議決権者の過半数をもって行

う。可否同数の際は、議長の決するところによる。ただし、本規約の改正に関しては委員会において出席した議決権者の三分の二以上の議決を必要とする。

第六章 加盟・脱退及び懲戒

第二十四条

① 本連盟に加盟を希望する大学は本連盟あてに書面をもって申し込み、委員会による過半数の承認を受けることを要する。

② 加盟せんとする大学は次の規定に従う。

一、部員数（登録人数）五名以上。

ただし、女子大の場合は三名以上とする。

二、連盟加盟校の推薦を必要とする。

本連盟から脱退を希望する大学について、正当な理由を認めたる場合にこれを許可することができる。

第二十六条

① 連盟執行委員会は加盟校中不都合・不適切な行為のあった時は懲戒手段を講ずる事ができる。
② 懲戒の方法は次の方法で行う

一、正当な理由なしに締め切り日に遅れた場合

は罰金を徴収する。ただし、本連盟の過失が認められる場合はその限りではない。

イ、連盟関係：一件につき一律五千円也

ロ、九州学生選手権大会関係：五日以内一件につき五千円也

ハ、締切遅れによる罰金を払わない場合また、累積三回目につき無条件で該当年度の出場停止とする。なお、出場停止は九州学生弓道連盟主催のものとする。

二、本連盟主催大会・試合への一定期間出場停止

三、本連盟主催大会・試合への無期限出場停止
③懲戒方法の審議は執行委員会にて行うものとする。

④出場停止処分をする場合、委員会において加盟校の三分の二以上の議決を必要とする。

⑤懲戒を受ける加盟校は、文書による釈明の機会が与えられる。

第二十七条

九州学生弓道選手権大会に三年連続欠場した場合、本連盟を脱退したものとみなす。なお、再加盟は所定の規約に基づく。ただし、本連盟及び主管校でその理由が正当と認められた場合はその限りではない。

第七章 会 計

第二十八条 会計年度は、毎年九月十六日より始まり、翌年九月十五日をもって終る。

第二十九条 本連盟の経費は次の収入をもってこれに充てる。ただし、大会参加費は、大会賛助金と広告代金は大会主管校の収入とする。

一、加盟校の連盟費

(一)男女部員を有する加盟校は年間 七千円也

(二)男子部員のみを有する加盟校は年間 六千円也

(三)女子部員のみを有する加盟校は年間 五千円也

一、加盟校の大会参加費 主管校に一任する。

一、大会賛助金

(一)男女部員を有する参加校は 四千円也

(二)男子部員のみを有する参加校は 三千五百円也

(三)女子部員のみを有する参加校は 三千五百円也

一、寄付金その他の収入

一、部員登録料

部員一名につき 一ヶ年千百円を納入

一、広告代金

加盟校には広告の取得を義務づける。また、その金額は主管校に一任する。

一、第二十六条二項によって回収した罰金。

一度納入された金額はいかなる理由があっても返還しない

第三十条

連盟費および部員登録費は毎年十一月末日までにこれを会計に納入するものとする。

第三十一条

会計報告は機関誌にこれを掲載する。

第二編 競技規則

第八章 審判規定

第三十二条

本連盟主催の公式試合における競技審判規定は本連盟の規定による。

第三十三条

審判判定は次の規定に従う。

一、競技には審判員をおく。

一、審判は執行委員の任命した審判長及び審判員若干名をもって構成し、同時に審判にあたる。

一、審判は本連盟競技規定及び全日本学生弓道連盟規約に基づきこれに従う。

一、審判員の裁定には必ず服さなければならない。

第三十四条

一、次に該当する者は失格にする。

(一) 審判員の裁定に服さない者

(二) 正当な理由なくして指定の時刻に出場なき者

(三) 競技及びその進行会場の整備などに妨害、支障をきたした者

的の中に関する規定は次の通りとする

① 次の各号に該当する矢は中りとする。

(一) 的輪内にて的枠に入った場合。矢折れまたは筈が飛んだ場合も中りとする。

(二) 矢が的を射抜いて安土に潜り、的面に見えない場合

(三) 矢が的枠の合わせに中った場合

(四) 矢の筈(的輪の内外のいずれにあるかを問わず)に中った場合。

(五) 矢が的に当たり、的が安土から転落したが矢は的についたままである場合。

(六) 的の内側より外に射抜いた場合。ただし、的枠が破損した時は外れとする。

② 次の諸項に該当する矢は外れとする。

(一) 候串に中った場合

(二) 矢掃きして中った場合

(三) 中り矢が的又は枠に中り飛び返った場合

(四) 矢中りの転落し、矢的より離れた場合

(五) 的枠の外から内に射抜いた場合

(六) 矢の筈を射て外れたる場合

(七) 失矢（はずこぼれ）した場合

(八) 本条第一項に該当しない場合

③ 行射終了後、選手及びその介添は的中に関する異議申し立てを審判に訴求することができ、審判は該当の的について画像による開示を行う義務を負う。ただし、直接確認することはできず矢または的に接触した場合、その的すべての矢を外れとする。

第九章 競技規定

第一節 総 則

第三十五条 本連盟の主催する全ての競技は、日本弓をもつて行う。また試合の期日及び方法の細則は、委員会において決定する。

第三十六条 出場選手は、「行射を開始してください」という合図が行われてから行射を開始する。行射開始の合図が行われる前に行射を開始し的中した場合、その矢を無効として失中とする。

第三十七条 追い越し発射は、その矢を無効として失中とする。

る。「追い越し発射」とは、団体戦においては、自分のチームの前の選手より先に射離すことを意味する（大前の場合は二射目以後落より先に射離すこと）。個人戦においては、前の選手より先に射離すことを意味する（大前の場合は二射目以後後ろの選手より先に射離すこと）。

第三十八条 出場選手は通常、在学生にして本連盟に登録している者に限る。ただし、出場資格は在学期間中とし、留年により通常在学期間を超える者の出場資格はこれを認めない。ただし休学はその限りではない。

第三十九条 的は枠の深さ十センチとし直径三十六センチの星的とする。

第四十条 三十六センチの的位置は地上約九センチにして候串を使用する。三十六センチの的以外の的を使用する場合、その的の中心を三十六センチの中心にそろえてかける。

第四十一条 射位よりの面までの距離は二十八メートルとする。

第四十二条 引き直しは打ち起こしを開始した後はこれを許さず。

第四十三条 勝敗は的中数の多少によりこれを定める。

第四十四条 団体試合の際、的中数同数の場合は、各射手

一手をもって競射（ただし、九州学生弓道選手権大会の決勝リーグは第五十三条（二）を適用する。なお、一手にて勝敗を決しない場合は、射手一本をもって競射し、勝敗の決するまで続行する。

第四十五条

競技中の矢返しは原則として認めない。

第四十六条

自立から他立への移動は認めない。

第四十七条

棄権は敗とみなす。

第二節

九州学生弓道選手権大会

第四十八条

団体選手権、個人選手権の両試合を行う。

第四十九条

本大会は原則として十月下旬に行うものとする。

第一項 団体戦

第五十条

団体戦は予選・決勝リーグ戦を行うものとする。

第五十一条

選手は男子一チーム八名とし、他に補欠四名までの出場を認める。

女子は一チーム四名とし、他に補欠三名までの出場を認める。

右において男子は一チーム六名以上、女子は一チーム三名以上であれば出場出来る。

第五十二条

予選での矢数は男子一チーム六十四射とし、一射士四矢二立、計八射まで順立にて射るものとする。

第五十三条

女子は一チーム三十二射とし、一射士四矢二立、計八射まで順立にて射るものとする。

（一）予選は的中数により、男子女子各上位八校を通過とし、決勝リーグ戦を行う。ただし、同中の場合、男子一本、女子一手競射を行う。

（二）決勝リーグ戦での矢数は、一射士四矢二立とし、両チームの的中数が同中の場合、男子一本競射、女子一手競射を決するまで行う。

（三）順位決定は決勝リーグ戦における勝率による。ただし、勝率が同じ場合は決勝リーグ戦における総的中数にて決定する。勝率射総的中数が同じ場合は男子一本競射、女子一手競射を決するまで行う。

なお、勝率、射総的中数が同じ場合の順位決定競射のメンバー変更及び立順変更を認める。

第五十四条

選手交代は四矢単位にて認めるが、立順の移動は認めない。しかし一度退いた選手は、四射休憩先の立順に関係なく交代できる。

第二項 個人戦

第五十五条

個人選手権の競技方法は左記の方法によるものとする。

男子 一、予選 四射皆中

一、決勝 射詰（六射目から直径二十四センチの星的を使用する）
女子 一、予選 四射三中以上

一、決勝 射詰（六射目から直径二十四センチの星的を使用する）

第五十六条 個人選手権出場者は各校男子十二名、女子七名

までとし、団体戦出場者はこれに含まれる。

第五十七条 団体競技に出場した選手で団体第一次予選一立

目において男子皆中、女子三中以上の者は個人競技の第一次予選通過と認める。

補欠選手は団体第一次予選一立目終了後第一次予選を行い男子皆中、女子三中以上を通過とする。

第五十八条 その他九州学生弓道選手権大会に関する事項は実施要項、運営要綱によって定める。

第三節 西日本学生弓道選手権大会

第五十九条 西日本学生弓道選手権大会に関する規定は別紙のとおりとする。

第四節 九州地区百射会・記録会

第五十九条 百射会は年一回行う

第六十条 勝敗の決定は的中数によって決定する。優勝者が同中数の場合は連中数により決定し、連中数も等しい場合には前述の連中数をより早く達成したものを優勝者とする。対象者がこれらの基準に関し同等だ

った場合のみ射詰競射にて優勝者を決定する。

第六十条

①百射会への出場資格は原則として各大学1名、もしくは本連盟が推薦した者のみが出場できるものとする。

②連盟の推薦基準に関しては次の通りとする

一、九州学生弓道連盟または全日本学生弓道連盟が主催する大会の個人戦において、優秀な成績を収めている者

一、前項の条件と同等、もしくはそれ以上の成績を他の大会で残している者

一、九州地区代表としてふさわしい者。

第六十一条 ①参加大学、本連盟が推薦した者の大学は指定した日時までに出場選手を申請しなければならぬ

②選手登録の締め切り以降は原則として選手変更を認めない。

第六十二条

①百射会においては一選手一立四射で百射、記録会においては一選手一立四射で六十射とし、立射、射込み形式とする。

②一立の制限時間は五分とする。

③弦切れ等、射場審判が延長を必要と判断した場合のみ一分間の延長を認める。

第六十三条 その他百射会・記録会に関する事項は実施要項・

運営要項によって定める。

第九章 附 則

第六十五条 災害発生時や、国や地方公共団体等からの活動制限が要請された場合の競技規定と表彰については、大会実施要項により変更するものとする。変更する場合は、委員長が発議し、代表者会議出席校の三分の二以上の同意を得なければならない。ただし、大会前日及び期間中に前述の事態が発生した場合はその限りでない。

第六十六条 本連盟の肖像権に関する方針は、別途「九州学生弓道連盟肖像権の取扱規程」において定めるところとする。

令和 7 年度 年間行事予定表

3月	部員登録
5月	春季中央委員会
6月	全日本学生弓道選手権大会 個人戦予選 全国弓道選抜大会 九州地区大学体育大会
7月	西日本学生弓道選手権大会
8月	全日本学生弓道選手権大会 夏季中央委員会
10月	九州学生弓道選手権大会 東西選手選考 選拔出場校選考 王座出場校選考
11月	全日本学生弓道王座決定戦 東西学生弓道選抜対抗試合
12月	九州学生弓道新人戦指宿大会 連盟誌「進取」作成開始

編集後記

広報担当として任された大きな仕事「進取」。今まで何気なく読んでいたこの冊子が、皆様のお手元に届くまでに長い時間と多くの方の努力が注がれていることを、今回の編集を通して改めて実感しました。皆様の輝かしい成果を広く伝えるお手伝いができることを、大変光栄に思います。

本号の編集にあたり、皆様から寄せられた寄稿文を拝見しました。そこにはそれぞれの思い、置かれた状況、そして環境があり私自身も強く共感しました。また何不自由なく弓道に打ち込める場所があること、そして切磋琢磨できる仲間と出会えたことに、改めて感謝の気持ちが入り込みました。弓道という素晴らしい競技を通して、皆様の大学生活がより充実したものになることを願っております。

最後に、本号の発行においてご協力いただいた先生方、関係者の方々並びに各加盟校の皆様に厚く御礼申し上げます。広報という役職が設置されてから、早くも二年が経とうとしています。今後も、九州地区の皆様の活躍をより多くの方々にお届けできるよう、精進してまいります。皆様のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

南夏凜

「進取」第四十号

令和七年四月

発行 九州学生弓道連盟

〒814-0133 福岡市城南区七隈八丁目十九-1
TEL〇九二(八六四)二六五七

編集責任者 南 夏凜

石橋百々香 今井 涼凱

高永 寛太 當眞 寧菜

諏訪 丈寛 成富 眞陽

丸田 夏凜 藤本 実桜

長尾 光留 梅津 康平

辻 秀華 岡 結和理

川添 琉暉 武野 真子

飯塚 咲三 加藤 参太

末吉 劍祥 吉田 祐介

重野 心華 大西 有宇

吉村 拓真 平松 奈倅

三枝 啓珠 安田 遥翔

田中 佑実 倉住 杏奈

小林 愛望 柳 凜太郎

印刷 モード 伊形圭史

(福大弓道部 第五十二代)

福岡市南区寺塚二丁目三十一番十三
TEL〇九〇(九四九六)九〇九一